

ケナシカシダザサ イネ科*Sasa oshidensis* Makino et Uchida subsp. *glabra* (Koidz.) Sad.Suzuki

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



岩美町 2021.4.15 /撮影：前田雄一

執筆者：前田雄一

オニグジョウシノ イネ科*Sasaella ikegamii* (Nakai) Sad.Suzuki

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



岩美町 2020.11.24 /撮影：前田雄一

執筆者：前田雄一

ヒロハヘビノボラズ メギ科*Berberis amurensis* Rupr.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



日南町 2021.5.6 /撮影：坪倉 敏

執筆者：坪倉 敏・浜田幸夫

オオバメギ メギ科
Berberis tschonoskyana Regel

鳥取県：情報不足 (DD)
環境省：—



氷ノ山 2006.6.1 /撮影：坂田成孝

執筆者：坂田成孝

サンカヨウ メギ科
Diphylleia grayi F.Schmidt

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



若桜町 2016.5.5 /撮影：清末幸久

執筆者：清末幸久

タンナトリカブト キンポウゲ科
Aconitum japonicum Thunb. subsp. *nipiforme* (H.Lév. et Vaniot) Kadota

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



大山町 2021.10.5 /撮影：木村順二

執筆者：木村順二

ミチノクフクジュソウ キンポウゲ科
Adonis multiflora Nishikawa et Koji Ito

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
 環境省：準絶滅危惧 (NT)



日野町 2021.3.27 /撮影：矢田貝繁明

■選定理由：1980年代に県内で群生が知られていた自生地は、採取と生育環境の悪化により現在は数本が生育するのみ。このままでは数年で絶滅する。2018年に新たな生育地が発見されたが、絶滅の危険性はほとんど下がっていない。

■特徴：日当たりの良い広葉樹林下や原野に生育する多年生草本。茎の断面は中空、葉は互生。県内では、休耕田の畦や原野に生育している。雪解け後の3月上旬から下旬、花弁が12-15枚の光沢のある黄色の花を咲かせる。萼片の長さは花弁の1/2から2/3でほとんどが5枚。開花時の高さは5-7cmだが、花が終われば急激に茎が伸び、夏季には地上部は消える。

■分布 県内：伯耆町、江府町、日野町。県外：本州（中部以北）、九州。

■保護上の留意点：採取のため絶滅寸前、早急に実効性のある採取防止策が必須。自生環境は草刈りでかろじて維持されており、草地、畦畔の維持・管理が必要。

■特記事項：鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆者：矢田貝繁明

ユキワリイチゲ キンポウゲ科
Anemone keiskeana T.Ito ex Maxim.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
 環境省：—



鳥取市河原町 2021.2.28 /撮影：松本 綾

■選定理由：県内東部の限られた場所に少数が生育するのみ。里山の管理放棄により生育適地減少。採取圧、シカ食害の場所もあって減少顯著。

■特徴：平野・低山域のやや湿った雑木林や林縁に群生する多年生草本。春植物。初夏に地上部は消滅し秋に越冬葉をつける。根茎は多肉質で紫色を帯びる。根出葉は長い葉柄があり三角形、3出全裂でミツバに似る。小葉は菱形で上半部に粗鋸歯、白斑紋がある。下面是暗紅紫色。茎葉は3輪生。花期は3月、径約3cm 带紫白色の花を頂生する。多くは気温が上昇する午後に開花。可憐な花で人気があり採取圧がある。県内では近年シカの食害が増え、影響が顕著な地点では、春遅れて出現した本種の貧弱な個体がかろじてところどころ生育している衰退状況となっている。

■分布 県内：岩美町、鳥取市（国府町、河原町、用瀬町）、八頭町、智頭町。県外：本州近畿以西、四国、九州。

■保護上の留意点：採取防止。里山の植生管理。ニホンジカの適正管理。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：松本 綾

キクザキイチゲ キンポウゲ科
Anemone pseudoaltaica H.Hara var. *pseudoaltaica*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
 環境省：—



三朝町 2021.4.21 /撮影：坂田成孝

■選定理由：山間部の草地管理放棄と採取圧により個体数減少。冬季の温暖化で他の植物が優勢となった結果、本種の減少が疑われる地域もある。

■特徴：明るい落葉樹林の林床や林縁に生育する小形の多年生草本。春植物。ブナ帯周辺の高冷地や多雪地を中心にカタクリとの混生も多い。小コロニーを作り晩春までに地上部は消える。高さ5-15cm。根出葉はキクの葉より深く切れ込み2回3出複葉。4月、径2.5-4cmの花を1個頂生。花弁はなく淡紫色から白色の萼が花弁状となる。千代川中上流部では果樹園放棄にともない個体数が激減。道沿いで観察された地域では、冬季の温暖化により他の植物が以前より繁茂し本種が生育できない様子が観察された。

■分布 県内：岩美町、若桜町、智頭町、鳥取市南部、三朝町、琴浦町、大山町、伯耆町、南部町、江府町、日野町、日南町。県外：北海道、本州（中国地方以北）。

■保護上の留意点：採取防止。自生地周辺の落葉広葉樹林維持管理。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：松本 綾

アズマイチゲ キンポウゲ科
Anemone raddeana Regel

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



鳥取市佐治町 2021.3.19 /撮影：岡田祐哉

■選定理由：県内では千代川支流中流域の果樹園や畑周辺に多いが他では少ない。果樹園放棄や除草剤の使用などで近年明らかに減少している。

■特徴：樹林下などに生育する多年生草本。晩春から休眠する春植物。一般に石灰岩地を好む。他の植物が越冬しにくい北向き急斜面で、定期的に下草が刈り払われ早春の日照が確保される果樹園が生育適地。自生地域では、この花が咲くともう雪は降らないと言われるほど身近な植物だが、葉が密集すると滑りやすいうことから農家には好まれない。除草剤の使用で個体数が減少している地域もある。根出葉は1個、2回3出複葉。3~4月、径3~4 cmの花を1個頂生する。花弁はなく白色の萼が花弁状となる。かつて生育が確認されていた地域で近年はニリンソウが優勢の場所もある。

■分布 県内：鳥取市（河原町、佐治町）、三朝町、関金町、日野町。県外：北海道、本州、四国、九州。サハリン、朝鮮、沿海州。

■保護上の留意点：地域住民の理解を得ながらの自生地保全管理。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

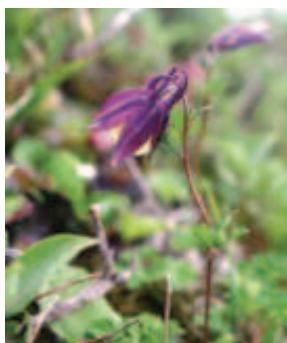
執筆者：松本 綾

ヤマオダマキ キンポウゲ科

Aquilegia buergeriana Siebold et Zucc. var. *buergeriana*

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



大山 2010.6.14 /撮影：鷺見寛幸

執筆者：鷺見寛幸

■選定理由：県内では大山に自生するが、岩礫地の崩壊により生育地が減少し、個体数が減りつつある。目立つ花で人目に付きやすく、採取されることもある。

■特徴：山地の草原に生育する多年生草本。県内では大山でのみ確認されている。高さは20~50 cmになる。葉は2回3出複葉で小葉は扇形、2~3全裂または深裂し再浅裂する。裂片は長さ約2 cm。花期は6~8月。がくは帶褐色。花弁は帶黄色で距は長く、内曲しない。距が内曲し、花が淡青紫色のミヤマオダマキも大山では希産だが人為的移入と言われている。

■分布 県内：大山。県外：北海道、本州、四国、九州。

■保護上の留意点：採取防止、大山山地草原の保全。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

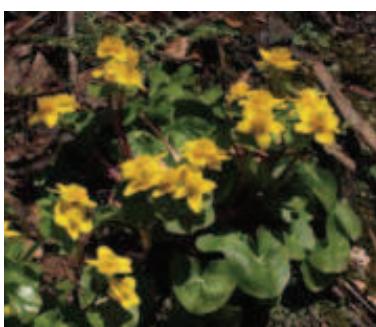
■文献：44, 106.

リュウキンカ キンポウゲ科

Caltha palustris L. var. *nipponica* H.Hara

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



三朝町 2010.4.25 /撮影：坂田成孝

■選定理由：多雪地の常時湿潤な急斜面に生育し、雪崩や崩落による攪乱を受ける。県内の自生地では土壌流出とシカの食害により個体数が激減した。採取圧もある。

■特徴：高標高地の多雪湿潤な斜面や、渓谷、水湿地に群生する多年草。太く短い根茎に白く太い根をもつ。高さ15~50 cm。花期4~5月。花弁はなく、萼片が濃黄色花弁状で2~3 cm。扇ノ山上地川上流では近年見つからなくなつた。

■分布 県内：鳥取市国府町、三朝町、日南町。県外：本州、九州。朝鮮半島。

■保護上の留意点：自生地の自然植生保護、採取防止。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

■文献：108.

執筆者：井上喜美子

トリガタハンショウヅル キンポウゲ科
Clematis tosaensis Makino

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
 環境省：—

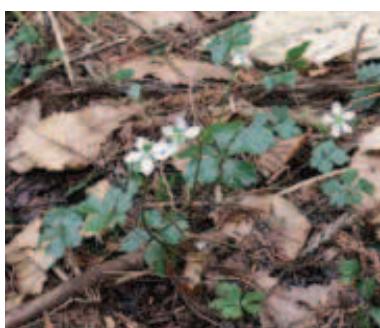


鳥取市鹿野町 2018.5.6 /撮影：坂田成孝

執筆者：坂田成孝

バイカオウレン キンポウゲ科
Coptis quinquefolia Miq. var. *quinquefolia*

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
 環境省：—



鳥取市佐治町 2021.3.27 /撮影：松本 純

執筆者：松本 純

サンインシロカネソウ キンポウゲ科
Dichocarpum nipponicum (Franch.) W.T.Wang et P.K.Hsiao var. *sarmentosum* (Ohwi) Tamura et K.Kosuge

鳥取県：その他の重要種 (OT)
 環境省：—



三朝町 2006.4.29 /撮影：磯江茂秋

執筆者：永松 大

■選定理由：県内では山地の明るい林縁にみられるが自生地は少ない。里山の維持管理が難しくなり減少している。花の時期に採取されることがある。

■特徴：丘陵地の明るい林床や林縁に生育する落葉つる性低木。3出複葉の葉が対生し、地面をはったり、低木にからみつく。花期は4-5月、葉腋から短めの柄を出し、先端に釣り鐘状の花を1つ下向きにつける。花弁の様に見える4枚の萼片は淡黄白色。和名は発見地の高知県鳥形山にちなむ。県内にふつうに見られるハンショウヅルは花柄が長く、萼片は紫褐色。以前は鳥取市鹿野町によく知られた生育地があつたが、森林の発達とともに減少し現在はほとんどなくなった。

■分布 県内：鳥取市鹿野町・南部町。県外：本州（福島県以南）、四国。

■保護上の留意点：里山の維持管理。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

■選定理由：県内での自生はもともと多くないが、里山の環境変化や採取圧、シカの食害等により減少傾向である。

■特徴：陽が差し込む明るい疎林や山地の陰湿な林床、ときに岩角地にも生育する小形の常緑多年生草本。県内では主にスギ植林地内に生育する。地下茎は黄色く横走する。葉は根出し掌状複葉。小葉は5枚つき、花は長い花茎の先端に1個頂生する。袋果は矢車状輪生（オウレン属共通）。和名は花をウメに見立てたもの。別名ゴカヨウオウレン。自生地では下草の手入れ不足でササが進出し、以前に比べ個体が貧弱になり数が減少している。シカの食害もあり、本種への影響が心配される。

■分布 県内：鳥取市（用瀬町、佐治町）。県外：本州（福島県以西）、四国。

■保護上の留意点：自生地の森林管理、明るい林床の維持。採取防止。ニホンジカの適正管理。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：松本 純

■選定理由：山陰から北陸にかけて分布し、山陰を特徴付ける種のひとつ。県内の山地渓谷沿いにふつうだが、搅乱には注意が必要。

■特徴：山地渓谷沿いの湿潤な林床や水分の多い崖地、急傾斜地に生育する小型の多年生草本。高さは10-20 cm。葉は複葉で鋸歯がある。花期は4-5月、径1cmほどの淡黄色の花を付ける。萼片5枚が花弁状になる。花後に走出枝を出す。基本種のアズマシロカネソウは北陸より北に分布し、より大型で走出枝をもたない。

■分布 県内：山地渓谷に点在。県外：福井県-島根県の日本海側。

■保護上の留意点：山地渓谷沿いの自然植生と立地の保全。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

ミスミソウ キンポウゲ科*Hepatica nobilis* Schreb. var. *japonica* Nakai

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



岩美町 2013.3.28 /撮影：坂田成孝

執筆者：井上喜美子

オキナグサ キンポウゲ科*Pulsatilla cernua* (Thunb.) Berchtold et J. Presl

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



日野町 2021.4.11 /撮影：針本翔太

執筆者：針本翔太

ヒルゼンバイカモ キンポウゲ科*Ranunculus nipponicus* Nakai var. *okayamensis* Wiegleb

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



大山町 2015.7.21 /撮影：矢田貝繁明

■選定理由：県内に点在する早春の可憐な花で、目立つため採取されやすい。鳥取市内のある自生地では盗掘により絶滅した。

■特徴：落葉樹林の林床や林縁に生育する小形の常緑多年生草本。葉は根生し、三角状で浅く3裂する様子から和名（三角草）がついた。葉は肉厚で冬も枯れない。花期3-4月。白色のものが多い。県内では海岸部から標高1000m付近まで点在。別名ユキワリソウとも呼ばれている。

■分布 県内：岩美町、鳥取市、倉吉市、三朝町、琴浦町、大山町、伯耆町、日南町。県外：本州（中部以西）、九州（北部）。

■保護上の留意点：採取防止、特に海岸部の遊歩道、神社境内。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

■文献：108.

■選定理由：県内数カ所の草刈りにより維持されている草地に生育するが、生育地は限られる。一部には盗掘により消失した集団もある。

■特徴：日当たりのよい草地や畦畔、山地斜面等の人為・自然攪乱が生じやすい場所に生育する多年生草本。太い根茎を持ち、全体に白毛が密生する。根出葉は2回羽状複葉で、花茎は根出葉の葉腋から出る。花茎は5-15cmで、花後には40cm程度まで伸長する。3-5月に5-6枚の暗紫赤色の萼片からなる花冠を下向きにして開花する。花後は瘦果に付属した羽毛上の花柱が伸長・乾燥し、風散布種子となる。かつては採草地や牧草地で多くみられたが、近年は管理放棄や盗掘等により全国的に個体数が減少している。開花期間中の降雨や降雪、遅霜等が繁殖を妨げる可能性がある。

■分布 県内：湯梨浜町、三朝町、大山町、江府町、日野町、日南町。県外：本州、四国、九州。朝鮮半島、中国北東部、ロシア沿岸。

■保護上の留意点：定期的な草刈りや裸地の創出。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

■文献：5, 95.

執筆者：針本翔太

■選定理由：現在知られている県内の生育地は1カ所のみ。上層木による被圧とクレソンの繁茂により群落は衰退し、絶滅寸前状態である。

■特徴：湧水のある河川水路などに生育する多年生の常緑沈水植物。バイカモに比べ葉が2倍程度長く、長さ8cm、葉柄が3cmになる。中国山地の河川に分布するが、岡山県北を中心とした比較的狭い地域に分布する。花期は夏で花は白色。径1.5cmほど。県内では大山町内の小溪流にわずかに生育している。

■分布 県内：大山町。県外：中国地方。

■保護上の留意点：生育地の上層木による被圧防止と他の水草（クレソン）の侵入防止。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

■文献：26.

執筆者：矢田貝繁明

バイカモ キンポウゲ科*Ranunculus nipponicus Nakai var. *submersus* H.Hara*

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



八頭町 2014.7.16 /撮影：永松 大

■選定理由：河川上流部の清流に生育し、県内でも生育地は限られている。数は少ないが注目される種で情報が集まりやすく、すぐに絶滅する可能性は遠いため、今回 VU に変更した。

■特徴：湧水地や水路に繁茂する常緑の沈水植物。冷水を好み水温が上がる場所では生育できない。県内では湧水地や河川の上流部、中山間地の水路に生育。茎の節から不定根を出して底に定着する。葉は互生し3裂、さらに糸状に細裂し、水流になびく。花期は6-10月と長い。葉腋から花茎を水面付近に伸ばし径1.5 cmほどの白色5弁の花をひらく。台風などの擾乱で減少することがあるが、生育環境が維持されれば回復する。

■分布 県内：若桜町、八頭町、鳥取市（気高町、青谷町）、倉吉市関金町、大山町、米子市淀江町、日南町。県外：北海道、本州。

■保護上の留意点：生育している水路の管理。

■特記事項：2012年版 RDB で含めていたヒルゼンバイカモは今回、別分類群として扱った。

■文献：115.

執筆者：永松 大

オトコゼリ キンポウゲ科*Ranunculus tachiroei Franch. et Sav.*

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



日野町 2019.8.4 /撮影：矢田貝繁明

■選定理由：県内で確認されている生育地は2カ所、生育個体数も少ない。生育環境は比較的安定している。西部地区に過去の生育記録地が數ヵ所あるが、現在は生育が確認できない。

■特徴：山地の日当たりのよい湿地、用水路、溝、ため池畔、休耕田などに生育するやや大型の多年生草本。茎は直立して多数分枝し、高さ80 cmを超える。根出葉は2回3出複葉。花期は7-8月で、茎の先端部に径10-15 mmの黄色い花を咲かせる。集合果は球形。2012年以降に西部地区で生育地が新たに確認された。

■分布 県内：日野町、日南町。県外：本州（福島県以南）。

■保護上の留意点：生育地のため池畔が急激に林地化するおそれは少ないが、ヤナギ類やヨシ類が生育するため、自生地の林地化防止対策が必要。

■文献：9.

執筆者：矢田貝繁明

マンセンカラマツ キンポウゲ科*Thalictrum aquilegiifolium L. var. *sibiricum* Regel et Tiling*

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧IB類 (EN)



大山 2014.7.21 /撮影：坂田成孝

■選定理由：県内での分布地は大山6合目以上のみ。ただし6合目より上有るカラマツソウ属の中には特徴がはっきりしないものもあり、本種の個体数は多くない。

■特徴：県内では大山6合目以上の高山地の草地に生育する多年生草本。茎は高さ1 m程度になる。茎葉は3-4回3出複葉、托葉は大きく膜質。小葉は長さ2 cmほど。花序は複散房状、白色で多数の花をつける。カラマツソウに似ているが、そう果は10個以下、倒卵形で先は切形。カラマツソウは県下に広く生育する。

■分布 県内：大山。県外：本州、四国、九州。千島、樺太、中国（北部・東北）、シベリア。

■保護上の留意点：大山の自然植生の保護。

執筆者：坂田成孝

ミヤマカラマツ キンポウゲ科

Thalictrum tuberiferum Maxim.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



氷ノ山 2014.6.26 /撮影：坂田成孝

執筆者：井上喜美子

■選定理由：県内では高山の一部に生育が限られ、個体数が少ない。

■特徴：高山の林下、岩場に生育する多年生草本。茎は細く、高さ 30–50 cm、茎上部でまばらに分枝する。根生葉は 1 枚で長い柄があり、2–3 回 3 出葉。花期 6–8 月。萼片は花期には脱落。雄しべが花弁状になる。茎頭に集散状円錐花序。県内では大山、氷ノ山系の高標高地渓谷沿いに生育する。

■分布 県内：若桜町、倉吉市関金町、琴浦町、大山町、江府町。県外：北海道、本州、四国、九州。北東アジア。

■保護上の留意点：山地渓谷の自然植生保護。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

■文献：108.

モミジカラマツ キンポウゲ科

Trautvetteria carolinensis (Walter) Vail var. *japonica* (Siebold et Zucc.) T.Shimizu

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：—



三朝町 2014.6.30 /撮影：矢田貝繁明

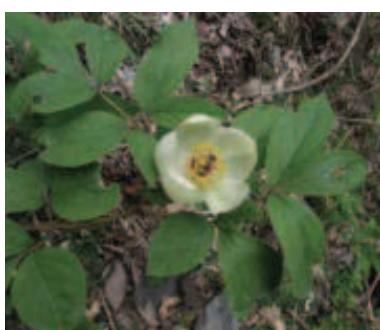
執筆者：山本晴恵

ヤマシャクヤク ポタン科

Paeonia japonica (Makino) Miyabe et Takeda

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



日南町 2020.5.1 /撮影：藤原文子

■選定理由：県内の山地に点在するが、特に東部ではシカによる食害により減少している。採取圧もある。

■特徴：ブナ林などの明るい落葉広葉樹林の斜面や稜線に生育する多年生草本。針葉樹人工林内にもみられる。県内では標高 300 m 以上の山地に点在。高さ 30–50 cm 内外。3–4 枚の茎葉をつけ、基部には数枚の鱗片がある。葉は 2 回羽状複葉で柔らかい。小葉は橢円形から卵形、先端は狭まりとがる。両面ともふつう無毛、裏面は白色を帯びる。花期 5–6 月、茎の先端に径 5–8 cm の花を開く。萼片は 3 枚、花弁は 5 枚。秋に「鶴冠状」の赤い結実を見る。林道沿いに生育している個体は刈り払われることがある。

■分布 県内：点在。県外：本州（関東以西）、四国、九州。朝鮮半島。

■保護上の留意点：採取防止。山地自然林の保護。人工林内の施業時に留意。林道の草刈り時に注意。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

■文献：108.

執筆者：藤原文子

ベニバナヤマシャクヤク ボタン科
Paeonia obovata Maxim.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)
 環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取県内 2015.6.9 /撮影：矢田貝繁明

■選定理由：県内の生育地は1カ所のみ。生育個体数は少なく、種の存続が危機的状況にある。初版時には野生絶滅とされたが2010年に自生が確認された。

■特徴：山地の明るい林内に生育するやや大型の多年生草本。ヤマシャクヤクに類似するが、花弁が淡紅色で柱頭は伸長し旋曲する点で異なる。花柱の数と葉の下面の軟毛の有無は個体によって異なる。高さは60-70 cm。花期は6月中旬。園芸目的の採取圧が非常に強く、現状では生育地が知られると採取されるおそれがないへん強い。

■分布 県内：非公開。県外：北海道、本州、四国、九州。北東アジア。

■保護上の留意点：森林伐採など生育地の急激な環境変化防止、園芸用採取の厳重な防止。

■特記事項：初版(2002)では野生絶滅評価。国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆者：矢田貝繁明

コウヤミズキ マンサク科
Corylopsis gotoana Makino var. *gotoana*

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
 環境省：—



南部町 2017.4.2 /撮影：赤井伸江

■選定理由：自生地が限られ孤立している。県内では西部の一部にのみ自生し、ササの繁茂や刈り払いの影響を受け絶滅のおそれがある。

■特徴：山間部の谷沿いや林縁などの、やや開けた明るい場所に生育する落葉低木。高さ3 m程度。葉は互生し、卵状楕円形から卵円形で長さ5-11 cm、幅3-9 cm。托葉は披針形で長さ1.5-2 cm。3-4月、葉の展開前に長さ3-4 cmの下垂する締状花序をつける。花弁は黄色で5枚、約は暗橙色から赤色。果実は蒴果で直径7-8 mm、種子は長さ3-4 mmで黒く光沢がある。

■分布 県内：伯耆町、南部町。県外：本州中部以西、四国、九州。

■保護上の留意点：谷沿いでは遷移、高木に被压されることにより衰退する可能性がある。林縁では草刈り管理などで伐採されないよう、周知する必要がある。

執筆者：赤井伸江

アテツマンサク マンサク科
Hamamelis japonica Siebold et Zucc. var. *bitchuensis* (Makino) Ohwi

鳥取県：その他の重要種 (OT)
 環境省：準絶滅危惧 (NT)



日南町 2021.3.4 /撮影：坪倉 敏

■選定理由：中国地方に多いマンサクの変種で、県内では日野郡を中心に局在的に分布する。

■特徴：中国地方に多く、四国、九州にも自生する落葉小高木。県内では日野郡内の明るい林内や林縁に多い。多分枝して樹形は伸び広がる。葉は互生、ややゆがんだ菱形状楕円形で三角形状の葉先は丸みを帯び平行葉脈が顕著。葉裏に星状毛があり成葉後も残存することが他のマンサク類との区別点。3月、葉の展開に先立って開花。黄金色の花をつける。花弁は4枚でリボン状縮れて開花する。4個の萼片、4個の約も黄色。和名は大正13年牧野富太郎博士が岡山県新見市（阿哲地方）で発見、新種のマンサクとして発表した。また「まんづ咲く」「満作」が由来。

■分布 県内：大山町、伯耆町、南部町、江府町、日野町、日南町。県外：中国地方、四国、九州。

■保護上の留意点：自生地の自然植生の保護、採取防止。

■文献：107.

執筆者：坪倉 敏・浜田幸夫

ヤシャビシャク スグリ科
Ribes ambiguum Maxim. var. *ambiguum*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：準絶滅危惧 (NT)



智頭町 2015.5.6 /撮影：前田雄一

■選定理由：生育に適したブナ、ミズナラ等の古木がナラ枯れや台風などの自然災害により減少している。倒壊した古木からの採取にも注意を要する。

■特徴：深山の樹上に生育する落葉小低木。古木の洞などに定着し、幹はしばしば横にはう。枝は短枝状となり、葉柄の基部が輪状に多数接するものが多い。葉は互生、葉身は楕円形、基部は心形。両面に短毛があり、幅3.5–5 cm。葉柄には短毛を密生する。花は4–5月、枝先に1–2個束生する。果実は緑色で腺毛を密生する。

■分布 県内：鳥取市、若桜町、智頭町、八頭町、三朝町、倉吉市、琴浦町、大山町、江府町。 県外：本州、四国、九州。

■保護上の留意点：自然林の保護。採取防止。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：前田雄一

ザリコミ スグリ科
Ribes maximowiczianum Kom.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：—



氷ノ山 2015.8.24 /撮影：坂田成孝

■選定理由：県内では氷ノ山にのみ自生する。分布地がせまく一部では個体の消失もあることから絶滅のおそれは高いが、今のところすぐに絶滅しそうな状況までには至っていない。

■特徴：温帯上部から亜高山帯にかけて分布する落葉小低木。雌雄異株。幹は下部から多数分岐し、高さ1 m内外。葉は長枝では互生。短柄では対生状となり、3–5裂の掌状葉と葉柄に腺毛がある。花期は5月、総状花序に黄緑色の花をつける。果実は卵形で赤熟する。県内ではブナ帯の渓谷や斜面地に見られる。氷ノ山では近年の豪雨で渓谷の崩落が目立ち、個体が消滅したところもある。

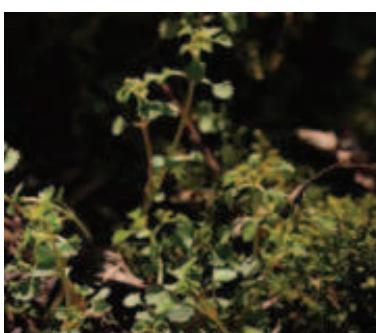
■分布 県内：若桜町。 県外：本州（宮城県以南に点在）、四国（高知県）。

■保護上の留意点：山地および渓谷の自然林の保全。

執筆者：坂田成孝

イワネコノメソウ ユキノシタ科
Chrysosplenium echinus Maxim.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：—



氷ノ山 2021.4.11 /撮影：岡田祐哉

■選定理由：近年の豪雨とシカ食害で生育地が荒廃しており、消失する可能性が高い。

■特徴：ブナ帯の渓谷岩上、またはその隙間や湿った林床を好む小型の多年生草本。葉は対生。花期は4月、花弁はなく、花は鋸歯のある苞葉と緑色の小さな萼裂片、オレンジ色の薬と構成される。雄蕊は8個。花後に走出枝を出し栄養繁殖する。地上部は小さくコケの中に埋まっていることもあり、見つけにくい。

■分布 県内：那岐山、氷ノ山、扇ノ山。 県外：北海道、本州近畿以北の日本海側。

■保護上の留意点：自生地周辺はシカ食害で裸地が増え、生育立地が失われつつある。ニホンジカの適正管理が必要。

執筆者：岡田祐哉

ツルネコノメソウ ユキノシタ科
Chrysosplenium flagelliferum F.Schmidt

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



氷ノ山 2021.4.23 /撮影：岡田祐哉

執筆者：岡田祐哉

チシマネコノメソウ ユキノシタ科
Chrysosplenium kamtschaticum Fisch. ex Ser.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



三朝町 2021.4.21 /撮影：岡田祐哉

執筆者：岡田祐哉

ヒダボタン ユキノシタ科
Chrysosplenium nagasei Wakab. et H.Ohba var. *nagasei*

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



三朝町 2021.4.3 /撮影：岡田祐哉

執筆者：岡田祐哉

■選定理由：生育環境が限られ、県内の自生地は東部のみ、場所も限られ個体数は少ない。

■特徴：深山幽谷の落葉樹林下にある浅い支流周辺に生えるユキノシタ科の小型多年草草本。マット状に拡がり大きな群落をつくる。茎には稜があり白い毛がまばらに生える。茎葉は互生する。花期は4-5月、黄緑色の萼裂片が平開し薬は黄色で花弁はない。花後に走出枝を出して増えるのが名前の由来だが、丸みを帯びた葉も特徴的。

■分布 県内：若桜町。県外：北海道、本州近畿以北、四国。ロシア、中国、朝鮮半島。

■保護上の留意点：自然植生の保護、急激な環境変化の防止。

ミツバベンケイソウ ベンケイソウ科*Hyototelephium verticillatum* (L.) H.Ohba var. *verticillatum*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



若桜町 2014.9.17 /撮影：坂田成孝

■選定理由：山間谷間の岩上に生育するが、主に人為的な環境変化により減少傾向にある。

■特徴：山地の露岩や溪流沿いの岩上に生育する多年生草本。高さ30-60cm。葉は厚くて白っぽく3枚輪生。ときに互生。花期7-9月。花弁は5枚で黄緑白色。茎頂に半球状花序をつくり多数の花をつける。花茎は冬には基部まで枯れ、毎春根茎の不定芽から地上部が出る。和名は三つ葉のベンケイソウの意味。

■分布 県内：鳥取市佐治町、若桜町、三朝町。県外：北海道、本州、四国、九州。北東アジア。

■保護上の留意点：山地の岩場、溪流の岩上およびその周辺の植生の保護。

■文献：108.

V
章

選定種の解説

執筆者：井上喜美子

アオベンケイ ベンケイソウ科*Hyototelephium viride* (Makino) H.Ohba

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：—



若桜町 2020.9.22 /撮影：矢田貝繁明

執筆者：矢田貝繁明

■選定理由：県内では2019年に若桜町内の岩場で生育が初めて確認された。生育個体数がもともと少ないうえに、生育地周辺はシカ食害が激しく、さらに減少している。

■特徴：樹幹や岩上に生育する草丈20cm程度の夏緑性多年生草本。葉は対生し、卵形で長さ5-6cm、幅3-4cm。花期は9月下旬-10月上旬。黄白色の多数の小花を茎の先端につける。現在確認されている生育地は岩壁のため、個体そのものはシカ食害から免れている。

■分布 県内：若桜町。県外：本州（中部地方以西）、四国、九州。

■保護上の留意点：採取防止、ニホンジカの適性管理、シカ食害の防止。

メノマンネングサ ベンケイソウ科*Sedum japonicum* Siebold ex Miq. subsp. *japonicum* var. *japonicum*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



八頭町 2021.5.13 /撮影：坂田成孝

■選定理由：県内では日当たりがよい岩場に点在するが、生育範囲は狭い。周辺の草本や樹木の成長による披陰で減少している場所がある。

■特徴：海岸から山地の岩上に生える多肉の小型の多年生草本。花茎は地表をはい、枝を分枝する。葉は互生し円柱形、長さ1cm内外、円頭。花期は5-6月、花茎を放射状に出し、径1cmほどの黄色の花をつける。山地の岩上に生えるオノマンネングサは葉が3輪生、長さは2cmより大きく、花も径1.5cmほどになる。「蔓延草」は摘み取っても枯れずに生きのこるさま、メノは「雌」の意。

■分布 県内：鳥取市（旧市）、佐治町、青谷町）、八頭町、若桜町、智頭町、三朝町、琴浦町、大山町。県外：本州、四国、九州。

■保護上の留意点：自生地周辺の環境維持、保全。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

13

維管束植物

執筆者：坂田成孝

アズマツメクサ ベンケイソウ科
Tillaea aquatica L.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
 環境省：準絶滅危惧 (NT)



湯梨浜町 2021.6.3 /撮影：矢田貝繁明

■選定理由：県内では生育に適した環境が限られ、生育地が少ない。2012年の改定時に生育が確認されていた鳥取市青谷町では、ヨシの繁茂により絶滅した。

■特徴：日当たりの良い水田や海浜泥地に群生する一年生草本。茎は束生し高さは5cm程度、葉は長さ5mm内外で多肉質の線状披針形。5-6月に白色の花をつける。最近10年間に鳥取市青谷町では絶滅したが、2020年に湯梨浜町内の休耕地で少数の個体群が確認された。

■分布 県内：鳥取市青谷町（絶滅の可能性大）、湯梨浜町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■保護上の留意点：休耕田への除草剤散布の防止。

執筆者：矢田貝繁明

ホザキノフサモ アリノトウガサ科
Myriophyllum spicatum L.

鳥取県：情報不足 (DD)
 環境省：—



東郷池 2018.9.6 /撮影：永松 大

■選定理由：2018年に東郷池に流れ込む水路で発見された。人工的な水路にも生育するため、県内各地での生育状況について調査を続ける必要がある。

■特徴：ため池や湖沼、水路に繁茂する常緑の多年生沈水植物。中-富栄養の淡水から汽水域にかけて生育するとされる。葉は細裂して長さ2-3cmの羽状になり4輪生、赤色をおびる。花期は5-10月、雌雄同株で長さ4-8cmの花序の上部に雄花、下部に雌花がつく。流水巾では植物体は2mを超えることがある。東郷池ではコンクリート製の用水路で流水巾に群生しており、植物体の長さは1m以上ある。

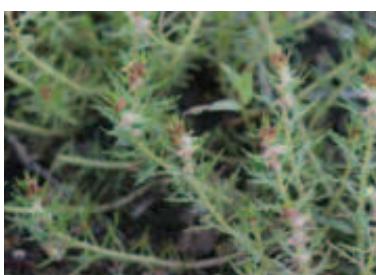
■分布 県内：東郷池、倉吉市、米子市、日吉津村。県外：北海道、本州、四国、九州。

■保護上の留意点：生育している水路の管理。

執筆者：永松 大

タチモ アリノトウガサ科
Myriophyllum ussuricense (Regel) Maxim.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
 環境省：準絶滅危惧 (NT)



鳥取市福部町 2014.9.16 /撮影：坂田成孝

■選定理由：県内では1カ所でしか生育が確認されていない。個体数も少なく絶滅のおそれが高い。

■特徴：湖沼やため池に生育する多年生の沈水・湿性植物。水位にあわせて沈水から陸生までの多様な形態をとり、水中では長さ50cm以上に、陸生でも高さ20cm程度になる。葉は下部は対生、上部は3-4輪生。沈水葉は羽状に細裂する。雌雄異株で花期は8-9月。花は葉腋につき、雄花の花弁は4枚で淡紅色。雌花は萼筒の先に白毛を密生した4個の柱頭がある。生育地の湖沼を継続してモニタリングしていく必要がある。

■分布 県内：鳥取市。県外：北海道、本州、四国、九州。

■保護上の留意点：生育地の環境保全。

執筆者：坂田成孝

ハマビシ ハマビシ科
Tribulus terrestris L.

鳥取県：絶滅 (EX)
環境省：絶滅危惧IB類 (EN)



岡山県 2019.9.2 /撮影：矢田貝繁明

■選定理由：海浜そのものの減少や変更によって全国的に生育数が激減している。県内では 1966 年頃まで鳥取砂丘や浦富の砂浜で時折見られたが、記録が途絶えて久しく絶滅したと考えられる。

■特徴：海浜植物で一年または越年生の草本。茎は根元で四方に分枝して地を這い長く伸びる、葉は対生し、各葉は偶数羽状複葉で 4-8 枚の小葉からなる。花期は夏で黄色の 5 弁花をつける、果実は径 1 cm ほどの球形で硬く、10 本の鋭い刺と密生する短毛がある。県内では 1966 年 8 月の岩美町浦富海岸での観察記録（写真とスケッチ）、同年同月の浦富海岸での別個体の観察記録（文献参照）がある。当時の標本は火災で消失し残っていない。

■分布 県内：現在は自生地なし。県外：東北を除く本州、四国、九州（海岸）。

■保護上の留意点：海浜の保全、継続した観察・情報収集。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

■文献：32, 33.

執筆者：清末幸久・清末忠人

フジキ マメ科
Cladrastis platycarpa (Maxim.) Makino

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：—



八頭町 2017.6.19 /撮影：前田雄一

■選定理由：県内では東部の限られた地域に孤立的に生育し個体数は少ない。山地谷間の自然林減少により存続に強い懸念。

■特徴：渓谷上の急斜面、谷間に生育する落葉高木。幹はふつう直通で素性は良い。一年生枝はジグザク状に屈曲し、冬芽はうすい白紙状の膜で覆われる。葉は互生して羽状複葉をなし長さは 20-30 cm。7-15 個ある小葉は葉軸に互生し、付け根に小さな針状の托葉がある。上面は緑色、下面是淡緑色。6-7 月に大きな複総状花序を枝先に頂生し、白色の蝶形花をたくさんつける。莢果は扁平、狭翼が発達する。内に 2-4 個の種子を有する。よく似ていて数の多いユクノキは、冬芽に赤褐色の毛を密生する。

■分布 県内：鳥取市、八頭町、若桜町。県外：本州（福島県以南）、四国、対馬。

■保護上の留意点：山地谷間の自然林の保護。

執筆者：前田雄一

タヌキマメ マメ科
Crotalaria sessiliflora L.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)
環境省：—



伯耆町 2021.8.26 /撮影：矢田貝繁明

■選定理由：環境の悪化にともない、県内の生育地はこの 10 年間に地点、個体数とともに減少した。特に西部地区ではクズによる被圧や耕作放棄により確認できなくなった自生地がある。東部地区では新たな生育地が確認された。

■特徴：日当たりのよい平地の原野や土手などに生育する 1 年生草本。古い時代の帰化植物とされる。茎は直立し、高さ 20-60 cm。全体に褐色伏毛が密生。葉は互生し、広線形か披針形で長さ 4-10 cm。茎の先端に総状花序をつけ、7-10 月に 2-20 個程度の青紫色の蝶形花を密に咲かせる。萼は大型で 2 深裂、上片は 2 再裂、下片は 3 再裂して豆果を包む。

■分布 県内：鳥取市、米子市、伯耆町。県外：本州（東北南部以南）、四国、九州。

■保護上の留意点：草地の保全管理。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：矢田貝繁明

イタチササゲ マメ科
Lathyrus davidii Hance

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



米子市 2021.7.10 /撮影：藤原文子

イヌハギ マメ科
Lespedeza tomentosa (Thunb.) Siebold ex Maxim.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



米子市 2021.9.13 /撮影：浜田幸夫

執筆者：浜田幸夫

ツルフジバカマ マメ科
Vicia amoena Fisch. ex Ser.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



米子市 2021.9.11 /撮影：藤原文子

執筆者：藤原文子

■選定理由：県内の生育地は米子市の1ヵ所のみで、個体数も10本以下。この10年で個体数が激減した。生育地は道路際で道路管理にともなう草刈りがあり絶滅が心配される。

■特徴：山地の草原、林縁などに生育する多年生草本。茎は高さ120cm内外、ほぼ無毛。葉は互生し偶数羽状複葉で小葉は4-8枚ほど。楕円形から卵形で裏面は緑白色。花期は7-8月。総状花序に10-30個の花がつき最初は黄色、のちに褐色に変化する。豆果は扁平な線形で長さ約10cmになる。ササゲの豆果に似る。生育地は生活道路斜面で林縁の明るい場所。林縁としての維持管理は必要であるが、イタチササゲが生育できるような配慮が必要。

■分布 県内：米子市。県外：本州、九州。

■保護上の留意点：地域住民の理解促進、道路維持作業による草刈り時の配慮、除草剤散布の防止。行政と委託業者の理解・協力が不可欠。

■文献：108.

執筆者：藤原文子

■選定理由：主に太平洋側に分布する種で、県内では西部の一部で自生が確認されるのみ。極限的に孤立しており、個体数が少なく希少性が高い。

■特徴：日当たりのよい草原や砂地に自生する多年生草本。茎の下部は小低木化し、高さ50-150cm、茎全体に黄褐色の軟毛が密生する。葉は互生し3出複葉。小葉は長さ5-6cm、幅2.5cm。裏の葉脈が隆起する。葉腋から花茎を出し総状花序に多数の小花を付ける。花は淡黄白、花冠内部に赤紫色の斑点がある。花序の基部附近に閉鎖花が多数塊状に付く。結実は主に閉鎖花で、開放花は結実が悪い。花期は9月上・中旬。米子市の自生地では上下2段の堤防法面と管理道路内に群生する。

■分布 県内：米子市。県外：本州、四国、九州、沖縄。朝鮮、中国、インド、ヒマラヤ。

■保護上の留意点：堤防・道路維持の草刈り時に注意が必要。

オオバクサフジ マメ科*Vicia pseudo-orobus* Fishc. Et C.A.Mey.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



南部町 2021.9.11 /撮影：赤井伸江

■選定理由：自生地が限定され、個体数も少ない。

■特徴：山野の林縁や草地に生育するつる性の多年生草本で、倒伏して長さ50–100 cm。葉は長さ7–20 cmの複葉。小葉は互生し4–10枚をつける。先端は巻きひげとなる。托葉は半切卵形で、歯牙があるかまたは2裂する。花期は8–10月、長さ4–7 cmの総状花序をつける。花は青紫色から紅紫色。豆果は狭長楕円形で数個の種子が入る。2016年頃に県内西部の数ヶ所で自生が確認された。自生地はいずれも林道脇で草刈り管理がされる場所。このため花をつける個体が少なく、つづても花数は少ない。本種は今回、予防原則の点からVUに位置づけたが、今後の調査により県内で確認のない同属のヨツバハギとの比較が待たれる。

■分布 県内：伯耆町、南部町、江府町。県外：北海道から九州。

■保護上の留意点：開花直前の夏季に草刈りされるため自生地周辺への周知が必要。ただし草刈りをやめると他の林縁植物に被圧され、消失する可能性が高く、管理は難しい。

執筆者：赤井伸江

ヒナカンザシ ヒメハギ科*Salomonia ciliata* (L.) DC.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



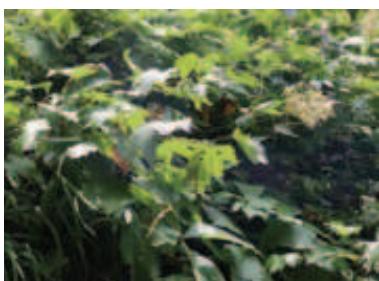
島根県 2012.9.23 /撮影：矢田貝繁明

執筆者：矢田貝繁明

オニシモツケ バラ科*Filipendula camtschatica* (Pall.) Maxim.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



若桜町 2021.7.25 /撮影：松本 綾

■選定理由：もともと限られた地域にのみ自生するが、森林の荒廃、ササの進出、シカの食害、気候変動による豪雨にともなう個体の流出などにより希少性が高まってきている。

■特徴：県内のブナ帯域、多雪冷涼な沢沿いの日当たりのよい斜面に生育する大形の多年生草本。茎には稜角があって高さ1–2 m。葉は互生し、頂小葉は掌状で5–7中裂、裂片は鋸尖頭。側小葉は数対あるが微小。托葉が茎を抱き目立つ。花期は6–7月。茎頂に散房花序を出し、白色一帯紅白色の花を密生する。シモツケソウに似るがより大形。ササや人里植物が進出して植生が変化、豪雨により個体が流出など以前確認した場所で生育が確認できない例があった。急峻な渓谷沿いでシカが届かない場所には残っている。

■分布 県内：若桜町、八頭町、鳥取市佐治町、三朝町、日南町。県外：北海道、本州（中部以北に多い）。サハリン、千島、カムチャツカ。

■保護上の留意点：山地谷沿い斜面等の植生保全。ニホンジカの適正管理。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：松本 綾

ノウゴウイチゴ バラ科
Fragaria iinumae Makino

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



大山 2016.5.22 /撮影：矢田貝繁明

執筆者：矢田貝繁明

■選定理由：種の分布域は本州中部以北の山地であるが、大山にわずかに隔離分布する。生育地の草原化または崩壊土砂による埋没が減少要因。近年の調査により新たな生育地が見つかり、CR+ENからVUに変更。

■特徴：亜高山～高山の草地に生育する多年生草本。高さ10-15cmで匍匐枝は長く地面を這う。葉は根生し長柄の3出複葉、緑白色。花期は5-6月。花弁は7-8枚で白色、径2cmほど。そう果は円錐形で赤熟し食用となる。県内では大山主峰の砂礫地にわずかに生育するのみ。過去の生育地点は、草原化あるいは崩落土砂による埋没により消滅、減少したところが多い。

■分布 県内：大山山域（琴浦町、大山町、江府町）。県外：北海道、本州（中部以北）。

■保護上の留意点：登山者による踏みつけ防止と採取禁止。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

カラフトダイコンソウ バラ科

Geum macrophyllum Willd. var. *sachalinense* (Koidz.) H.Hara

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



東山 2007.6.16 /撮影：永松 大

執筆者：山本晴恵

コキンバイ バラ科

Geum ternatum (Stephan) Smedmark

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



氷ノ山 2013.5 /撮影：山本賢二

執筆者：山本賢二

■選定理由：氷ノ山の登山道沿いにわずかに分布し植生管理や踏圧防止の保護活動が行われているが、近年減少が目立つようになった。シカの足跡が目立ち、コケの繁茂やチシマザサの密度低下がみられる。

■特徴：ブナ帯域の日当たりのよい林縁などのやや乾いた場所に生育する多年生草本。遺存植物。地下茎は長く這う。茎葉とともに軟毛が密生。根出葉は長柄がある。葉は3出複葉で頂小葉は大きく倒卵形、3浅裂、鈍鋸歯縁。側小葉はゆがんだ卵形で2深裂。茎葉は小形3裂被針形。花期は4-5月。葉から突出し径約2cmで黄色の花を付ける。漢名は小金梅。

■分布 県内：氷ノ山（分布限界）。県外：北海道、本州の亜高山帯。

■保護上の留意点：採取防止。登山道整備による踏みつけ防止。チシマザサの管理。

■特記事項：鳥取県条例採取禁止指定種。

リンボク バラ科

Laurocerasus spinulosa (Siebold et Zucc.) C.K.Schneid.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



伯耆町 2021.9.25 /撮影：赤井伸江

執筆者：赤井伸江

ズミ バラ科

Malus toringo (Siebold) Siebold ex de Vriese var. *toringo*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



日南町 2021.5.19 /撮影：木村順二

執筆者：木村順二

オオウラジロノキ バラ科

Malus tschonoskii (Maxim.) C.K.Schneid.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



南部町 2019.4.21 /撮影：赤井伸江

執筆者：赤井伸江

コゴメウツギ バラ科*Neillia incisa* (Thunb.) S.H.Oh var. *Incisa*

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



大山町 2016.5.27 /撮影：藤原文子

■選定理由：県内での生育地は西部に限定され、東部ではあまり見られない。個体数も少なく、採取圧もある。

■特徴：山地の林縁や草地に生育する小型の落葉低木。枝は折れやすく多分枝で高さ 30–70 cm。葉は互生、卵形、羽状欠刻で長さ 2–4 cm、幅 1–3 cm。葉の形は変異が多く浅裂または中裂する。裏面の脈上と葉柄に軟毛がある。葉柄は長さ 3–7 mm、托葉は長さ 5 mm の披針形。花期は 5–6 月、総状花序を出し、白色で径 4 mm ほどの花をつける。花弁は 5 個だが、萼片も花弁のように見える。花弁や萼片は白いが、萼筒の内側が黄色いので、遠くからは花は黄白色に見える。雄しべは 10 個、花弁より短く内側に曲がる。果実は袋果、長さ 2–3 mm の球形で 9–10 月に熟す。和名は小さい白花を小米（米粒の碎けたもの）に例えたもの。

■分布 県内：智頭町、大山町、伯耆町、南部町、江府町、日野町、日南町。県外：本州、四国、九州。

■保護上の留意点：山地森林や林縁の保護・保全。

執筆者：藤原文子

イヌザクラ バラ科*Padus buergeriana* (Miq.) T.T.Yü et T.C.Ku

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



大山町 2017.5.3 /撮影：矢田貝繁明

■選定理由：県内では各地の二次林に点在する。林縁での確認例が多いが、あまり多くはない。

■特徴：山間地の日当たりのよい林縁に生え高さ 10 m になる落葉高木、葉は互生し長さ 7–10 cm の長楕円形で先はとがりふちには細かい鋸歯がある。葉は桃の葉に似ると言われる。4 月ごろ前年の枝から総状花序を出し、直径 6–7 mm の白い花を多数つける。花は近縁のウワミズザクラに似るが、イヌザクラは花序枝に葉がないのが区別点。県内中部では近年の情報が不足している。

■分布 県内：鳥取市（旧市、河原町、鹿野町）、三朝町、倉吉市、琴浦町、南部町、江府町、日野町、日南町。県外：本州、四国、九州。

■保護上の留意点：地域住民への啓発、二次林の維持管理。

■文献：8, 108.

執筆者：磯江茂秋

イワキンバイ バラ科*Potentilla ancistrifolia* Bunge var. *dickinsii* (Franch. et Sav.) Koidz.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



大山 2018.7.18 /撮影：矢田貝繁明

■選定理由：県内の生育地は氷ノ山周辺と大山周辺に限られており、個体数も少ない。岩場以外の生育環境は、崩落や土砂流出により破壊されやすい。

■特徴：日本全土の山地岩場等に生育する多年生草本。根出葉は 5 小葉からなる。高さ 10–30 cm になり、根茎は太く肥厚し木質化する。花期は 6–7 月で、茎先に集散花序をつけ径約 1 cm の黄色の花をつける。大山周辺では、山頂付近の岩場のほか、土石流跡の沢などにも生育している。

■分布 県内：氷ノ山周辺、大山周辺。県外：北海道、本州、四国、九州。

■保護上の留意点：山地岩場等の保全。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：矢田貝繁明

カワラサイコ バラ科
Potentilla chinensis Ser.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：—

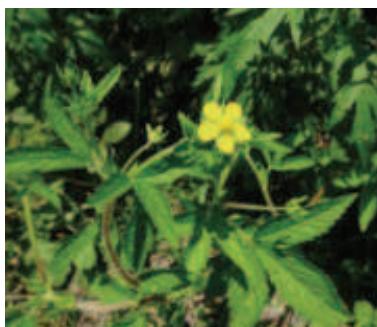


境港市 2021.6.30 /撮影：藤原文子

執筆者：藤原文子

ミツモトソウ バラ科
Potentilla cryptotaeniae Maxim.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



日南町 2021.7.21 /撮影：藤原文子

執筆者：藤原文子

シャリンバイ バラ科
Rhaphiolepis indica (L.) Lindl. var. *umbellata* (Thunb.) H.Ohashi

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：—



湯梨浜町 2017.5.10 /撮影：矢田貝繁明

■選定理由：生育地が限られており個体数も少ない。前回改訂以降に海岸工事にともない生育地が一ヵ所消滅した。

■特徴：日当たりのよい河原や海岸砂礫地に生育する多年生草本。やや肥大した直根をもつ。茎は高さ30-70 cm内外、長い毛を密生する。葉は互生し15-29個の小葉をもつ奇数羽状複葉。小葉は深く裂け、裏面に鱗毛が密生する。小葉の間には付属小葉片と呼ばれる小裂片がある。花期は6-7月。直径1-1.5 cmの黄色い5弁花を茎上部に多数つける。若い果実は萼片につつまれているが熟すと開く。和名は、根がミシマサイコに似ることから。

■分布 県内：米子市、境港市。県外：本州、四国、九州。

■保護上の留意点：海岸砂地や河原の保全管理。増水などによるかく乱が起こることも重要。

■選定理由：山地渓谷の環境変化、特にシカ食害による減少がみられる。林道整備にともなう生育地の消滅もあるが、新たな生育地も発見されている。

■特徴：渓谷沿いの草地や林床に生育する多年生草本。茎には開出毛が密生、はって斜上升し高さ30-100 cm内外になる。根出葉は夏期には枯れる。葉は互生し茎の下部では長柄があるが、上部では短毛か無毛。葉は3出複葉で小葉は狭卵形、長さ3-5 cm。重鋸歯縁で両面に伏毛が生える。葉柄基部には披針形の托葉がある。花期は8-9月。茎の先端に集散花序をつける。花は径1 cmほどの黄色い5弁花。和名は「みなもと」（水源）が変化したとされる。

■分布 県内：日野町、日南町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■保護上の留意点：生育地周辺の道路維持管理作業で本種が刈られることがある。関係者への周知徹底が必要。

■文献：108.

執筆者：藤原文子

■選定理由：植栽由来の個体は多いが、自生個体の県内の確認は数例のみ。生育状況は安定しているものの、個体数は少ない。

■特徴：海岸沿いの岩場に生育する常緑低木。多分枝して横に広がり、枝先に葉を密につける。葉には浅い鋸歯がある。花期は5月。枝先に円錐花序を出し、白色の5弁花をつける。10-11月ころ黒褐色に熟した果実を付ける。植栽由来のものは多いが、自生個体は少ない。湯梨浜町の集団はマルバシャリンバイと呼ばれる葉先があまり尖らず丸いタイプである。

■分布 県内：湯梨浜町、大山町。県外：本州（山形県以西）、四国、九州。

■保護上の留意点：自生地の岩場へのつる植物の侵入防止。道路や公園などの植栽木との交配防止。

■文献：106, 108.

執筆者：磯江茂秋

ハマナス バラ科
Rosa rugosa Thunb.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



鳥取市 2016.5.17 /撮影：永松 大

ヤマイバラ バラ科
Rosa sambucina Koidz.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



南部町 2015.5.23 /撮影：赤井伸江

執筆者：赤井伸江

ビロードイチゴ バラ科
Rubus corchorifolius L.f.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



日野町 2021.4.6 /撮影：藤原文子

執筆者：藤原文子

■選定理由：県内が日本海側自然分布のほぼ南限にあたり小群落が残るのみ。国の天然記念物として保護されているが、自生地の環境が改変されているため生育状況はよくない。

■特徴：海岸沿いに分布し、しばしば大群落をつくる落葉低木。北海道や東北の海浜に多い。南限は太平洋側では茨城県、日本海側は島根県東部。幹や枝に針のような鋭いトゲを多生する。若枝や葉軸には細毛を密生する。葉は7-9小葉からなる。花期は5-6月。枝の先に径6-7cmの赤い花を1-3個つける。まれに白花もある。果実は秋に赤く熟す。栽培個体が道路や公園に植栽されており、管理放棄された場所では自生との区別ができない。鳥取市と大山町の天然記念物指定地は周辺の改変によりハマナスの生育適地でなくなっている。今後の集団の持続性に懸念がある。

■分布 県内：鳥取市、琴浦町、北栄町、米子市、大山町。県外：北海道、本州。

■保護上の留意点：海浜の人工改変防止、園芸個体との交雑防止。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

■文献：65, 97.

執筆者：永松 大

■選定理由：県内の山間に点在するが個体数は少ない。

■特徴：山間地の日当たりのよい林縁に生育する、つる性の落葉低木。分枝した枝にある鉤形の棘で林縁の樹木や崖にはい上がり、高さ5-6m以上になる。葉は互生し小葉は2-3対の奇数羽状複葉。托葉は幅が狭く、葉柄に沿着し、全縁で耳片は細く、腺毛がまばらにつく。小葉は橢円形ないし長楕円形から披針形のものもある。葉先は長鋸突頭、鋸鋸歯があり、葉裏はやや紺白色。花期は5月中旬-6月上旬、花は白色で径3-5cm。散房状につく。

■分布 県内：岩美町、倉吉市、倉吉市関金町、伯耆町、南部町。県外：本州（愛媛県以西）一九州。

■保護上の留意点：日当たりのよい林縁部の管理時に注意。刈り払いに対しては強い印象だが、道路拡幅などにより消失する可能性がある。

南部町 2015.5.23 /撮影：赤井伸江

執筆者：赤井伸江

■選定理由：県内での現在確実な生育地は日野町のみで個体数も少ない。

■特徴：山地の路傍などに生育する落葉低木。茎は傾斜し、絨毛を密生し鉤枝がある。葉は長卵形で短鋸尖頭または鋸尖頭、長さ3-10cm。ときに3裂し、基部は浅い心形。縁に鈍鋸歯があり裏面の脈上に密毛がある。葉柄は長さ1-1.5cm。花期は4-5月。花枝は短く長さ1-4cm。絨毛を密生し少數の葉と1-2花がつく。小花柄は長さ5-12mm、絨毛を密生し傾いて花をうつむかせる。萼は絨毛を密生し裂片は披針形。花弁は白色。倒卵状へら形で長さ約10mm。果実は球形で約10mm、黄紅色に熟す。数年前まで日南町でも確認していたが、イノシシのかく乱により消滅した。

■分布 県内：日野町。県外：本州（静岡県東部以西）、四国、九州。朝鮮南部、中国。

■保護上の留意点：維持管理による草刈り時に注意。※日野町では管理者が除草時に配慮ずみ。

ミヤマニガイチゴ バラ科*Rubus subcraegifolius* (H.Lév. et Vaniot) H.Lév.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



日南町 2019.7.17 /撮影：藤原文子

コジキイチゴ バラ科*Rubus sumatranaus* Miq.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



八頭町 2017.6.6 /撮影：前田雄一

執筆者：前田雄一

キビナワシロイチゴ バラ科*Rubus yoshinoi* Koidz.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



日南町 2021.6.3 /撮影：藤原文子

執筆者：藤原文子

ナガボノワレモコウ（広義） バラ科
Sanguisorba tenuifolia Fisch. ex Link

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



大山町 2018.9.28 /撮影：矢田貝繁明

■選定理由：現在確認されている県内の生育地は2カ所で、生育個体数も少ない。除草剤散布や刈り払いの影響を受け減少している。

■特徴：やや湿った草地に生育する多年生草本。高さ80–130 cm、小葉は11–15個で長さ2–8 cm、幅1–2 cmの線形。花期は9月で花穂は長さ2–10 cm、直径6 mmと細長く、先端は少し垂れる。県内に多産するワレモコウに似るが、花穂が長く花弁が白色、雄しべが花弁より長く突き出ている点が異なる。「ナガボノワレモコウ」は草丈や花の色に変異が大きく、小型のタイプをコバナノワレモコウとして区別する見解があり、県内の集団はこれにあたる可能性がある。ここでは、中間型も多く明らかに区分できないとする平凡社図鑑の見解を採用。

■分布 県内：大山町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■特記事項：種同定について要検討。

■文献：77.

執筆者：矢田貝繁明

イワガサ バラ科
Spiraea blumei G.Don var. *blumei*

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



日南町 2016.5.3 /撮影：永松 大

■選定理由：県内では山地の岩場に生育し分布はまれ。個体群は互いに孤立しており、雪崩や崩壊などの自然擾乱による分布地減少の懸念がある。

■特徴：山地や海岸の岩場に生育する落葉小高木。枝を叢生し高さは0.5–1 mほど。葉身は長さ約2 cmのひし形状卵形で先端はまるく、基部は広いくさび形。花期は5月。径7 mmほどの白色5弁花を枝先に30ほど傘状に集めて咲く。自生地では岩場の比較的安定した場所に集まって生育する。地元ではタンゴイワガサとも呼ばれてきた。近年の調査努力により確認地が増加し、生育地に変化も少ない状況である。

■分布 県内：若桜町、鳥取市佐治町、三朝町、日南町。県外：本州（近畿以西）、四国、九州。

■保護上の留意点：自生地岩場の改变防止。採取防止。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

■文献：63.

執筆者：永松 大

マメグミ グミ科
Elaeagnus montana Makino var. *montana*

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



若桜町 2010.8.1 /撮影：坂田成孝

■選定理由：太平洋側で分布が多く、日本海側では希少な種。県内では東部の山地2カ所での確認があるのみだが、周囲の森林発達や台風による崩落で現状不明。

■特徴：山地の尾根などに生育する落葉低木。高さ2 m内外。古い枝は灰褐色。本年枝には赤褐色の鱗片が密生する。葉は互生、卵状橢円形で鋸突頭、やや厚く縁は波打つ。裏面は銀色の鱗状毛が散生する。花期は6–7月。花は白色で後に黄色を帯び、葉腋に1–3個が下垂する。果実は小さく長さ1 cm内外。生育地のうち、扇ノ山の林道わきでは周囲の樹木に覆われて消滅。氷ノ山では台風で岩崖が崩落し、岩上の植物が剥がれ落ちて現状不明。シカが届く場所ではシカ食害も影響している。

■分布 県内：扇ノ山、氷ノ山（現状不明）。県外：本州（関東から紀伊半島の太平洋側）四国、九州。

■保護上の留意点：山地、特に氷ノ山山系の自然植生の保護。ニホンジカの適正管理。

執筆者：坂田成孝

ヨコグラノキ クロウメモドキ科*Berchemiella berchemiifolia* (Makino) Nakai

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



日南町 2021.6.23 /撮影：坪倉 敏

■選定理由：県内では中部から西部の渓流沿いに生育が限られる。近年調査が進み確認例が増えているため、今改訂でNTに変更した。

■特徴：山地の渓谷や崖地に孤立的に生育する落葉中高木。樹皮は細かい縦の割れ目が顕著。葉は互生だが、左右に交互に2枚ずつ葉がつく2列互生の枝もしばしばみられる。葉身は長楕円形、上面は光沢、下面は帶粉白色、全縁、長さ約10cm。花期は6月。花序は小さな集散花序で、先端近くの枝の葉腋にできる。穂はやや起き上がる。花は3mmほどで黄色。果実は8月中旬に黄色から暗赤色に熟し径は7-8mm。もともと個体数は多くない種と考えられる。牧野富太郎博士が郷里高知の「横倉山」で発見、「ヨコグラノキ」と命名されたのが由来。

■分布 県内：三朝町、江府町、日野町、日南町。県外：本州（宮城県、新潟県以西）、四国、九州。

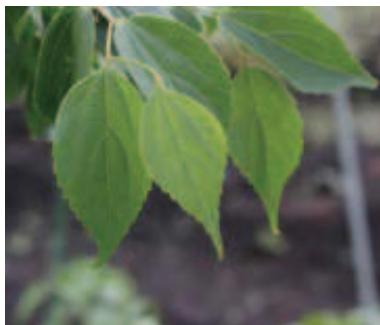
■保護上の留意点：山地渓谷沿いの自然植生の保護。

執筆者：坪倉 敏

コバノチョウセンエノキ（広義） アサ科*Celtis biondii* Pamp.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



鳥取市河原町 2012.5.17 /撮影：坂田成孝

■選定理由：県内の生育確認地は2カ所のみで個体数も少ない。すぐには絶滅しないが、人の生活圏内にあるため、公共工事等による影響が懸念される。

■特徴：やや乾いた丘陵地に生育する落葉小高木。葉は互生、倒卵形で長さ5cm前後、先端が尾状に突き出す。葉身は左右やや不对称、硬くて厚く表面に粗毛があり、中ほどから先端にかけて少数の鋸歯がある。エノキに似ているが、葉の先端が細く尖ることで区別できる。エノキと同所的にみられる。確認自生地は2カ所とも崖錐地で樹高は3mほど、花は確認できていない。道路拡張工事の際に一部減少したが、今のところ集団は維持されている。

■分布 県内：鳥取市（河原町、気高町）。県外：本州（近畿以西）、四国、九州、沖縄。朝鮮・中国。

■保護上の留意点：里山の落葉広葉樹林の維持管理時の本種の保護。公共工事での配慮。

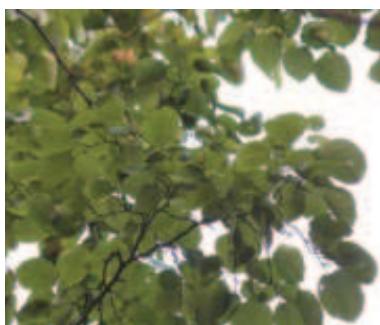
■特記事項：鳥取県立博物館にさく葉標本あり。

執筆者：坂田成孝

ケガワ クワ科*Morus cathayana* Hemsl.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取市 2013.10.17 /撮影：前田雄一

■選定理由：県内西部ではややまれ、中東部では限られた場所にまれに出現するのみで生育基盤が脆弱。

■特徴：適潤な立地に生育する落葉高木。樹皮は灰色。葉は互生。葉身は楕円形、広卵形、または円形。ヤマグワとやや類似するも、ヤマグワの葉が少し毛があるかもしくは無毛なのに対し、ケガワの葉は両面、特に下面と若枝に著しい毛がある。また、ヤマグワの花柱は中部まで2裂して柱頭となるが、ケガワの花柱は基部まで2裂して柱頭となる。広島県、岡山県では個体数が多く、県内のケガワの分布はこれに接する西部地域に偏る。東部の分布は人為の影響も含めて検討を要する。

■分布 県内：鳥取市、伯耆町、江府町、日野町、日南町。県外：本州（和歌山県、中国地方）、四国、九州。

■保護上の留意点：自然林の保護。

執筆者：前田雄一

サンショウソウ イラクサ科
Pellionia minima Makino

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
 環境省：—



南部町 2020.3.29 /撮影：矢田貝繁明

執筆者：矢田貝繁明

ヤマモモ ヤマモモ科
Morella rubra Lour.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
 環境省：—

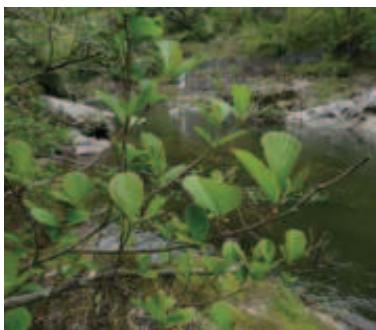


米子市 2009.7.20 /撮影：鷺見寛幸

執筆者：鷺見寛幸

カワラハンノキ カバノキ科
Alnus serrulatoides Callier

鳥取県：その他の重要種 (OT)
 環境省：—



日野町 2021.4.23 /撮影：藤原文子

執筆者：藤原文子

ミヤマハンノキ カバノキ科*Alnus viridis* (Chaix) Lam. et DC. subsp. *maximowiczii* (Callier) D.Löve var. *maximowiczii* (Callier) Yonek.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—

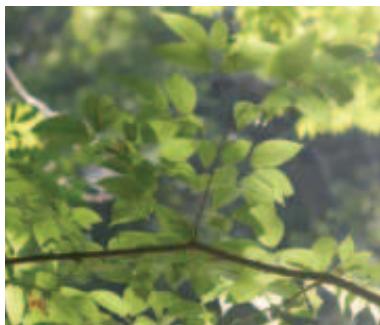


鳥ヶ山 2018.9.6 /撮影：矢田貝繁明

サワシバ カバノキ科*Carpinus cordata* Blume var. *cordata*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取市用瀬町 2018.8.18 /撮影：前田雄一

執筆者：前田雄一

ハシバミ カバノキ科*Corylus heterophylla* Fisch. ex Besser var. *thunbergii* Blume

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

日南町 2021.10.21 /撮影：木村順二
円内は果実 2018.8.16 /撮影：藤原文子

執筆者：木村順二

■選定理由：県内では大山山系の鳥ヶ山山頂部にのみ分布する。種の分布域から離れた南西限の小規模な集団のため、気候変動の影響が懸念される。

■特徴：亜高山域に生育する落葉低木。加賀白山以北の亜高山域に低木林を形成し、県内の集団は分布域から飛び離れた隔離分布。高さは5mほど、葉は広卵形一卵円形で、長さは5-10cm、先は尖り基部は浅心形。花は5-7月に葉の展開と同時に開く。鳥ヶ山山頂部は標高的には亜高山帯に届かないが、急峻な地形で季節風など厳しい環境のため、遺存的に生育しているものと思われる。

■分布 県内：鳥ヶ山。県外：北海道、本州（加賀白山以北）。カムチャッカー朝鮮半島。

■保護上の留意点：鳥ヶ山の自然環境管理。

■特記事項：分布南西限（隔離分布）。国立・国定公園採取禁止指定種。

■文献：89, 92.

執筆者：永松 大

■選定理由：太平洋側の山地では普通にみられるが、鳥取県では自生地も個体数も少ない。

■特徴：山地の谷沿いの肥沃地で生育する落葉高木。高さ12m、径60cmに達する。樹皮は灰褐色で浅い菱形の裂け目ができる。葉は卵形一卵状橢円形で幅が広く、基部は深い心形、側脈は15-20対で下面脈上に多少長い伏毛がある。花期は4-5月、雌雄別々の尾状花序を作る。雄花序は前年枝に側生して下垂、長さ5cmほど。雌花序は新枝に頂生する。果穂は狭長楕円で下垂する。やや似て多産のクマシデは葉の側脈の数が20-24対と多く、基部は浅心形ときにやや円い。

■分布 県内：鳥取市、若桜町、大山町、日南町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■保護上の留意点：谷沿いの自然植生保護。

執筆者：前田雄一

■選定理由：分布は県内西部に限られ点在するのみ。残存地は道路沿いが多いため管理作業で刈り込まれる。または周囲の高木に被壓されている場所もあり、総じて生育環境は不良で自然増殖は望めない。

■特徴：落葉広葉樹林、林縁部の陽光地に生える樹高2-5mの落葉低木で株が叢生する。葉は互生し掌状で丸く硬い。長さ6-12cm、幅5-12cmで不揃いの鋸歯がある。花期は3-4月、雄花は尾状花序、雌花は芽鱗に包まれたまま開花する。結実は9-10月、径1.5cmの堅果で、同属植物の果実‘ヘーゼルナッツ’に似て食べられる。近縁で県内にふつうなツノハシバミは葉も堅果もやや小さく、堅果の総苞は筒状で3個集合してつくことが多い。

■分布 県内：米子市、伯耆町、南部町、日野町、日南町。県外：北海道、本州、九州。

■保護上の留意点：自生地の提示と伐採回避。

執筆者：木村順二

ミヤマニガウリ ウリ科
Schizopepon bryoniifolius Maxim.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



水ノ山 2015.8.24 /撮影：坂田成孝

執筆者：坂田成孝

オオシラヒゲソウ ニシキギ科
Parnassia foliosa Hook.f. et Thomson var. *japonica* (Nakai) Ohwi

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：—



八頭町 2017.9.8 /撮影：坂田成孝

執筆者：井上喜美子

ウメバチソウ ニシキギ科
Parnassia palustris L. var. *palustris*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



江府町 2019.10.24 /撮影：矢田貝繁明

執筆者：鷺見寛幸

■選定理由：県内では扇ノ山、氷ノ山山系のブナ帯渓谷沿いに見られるが、近年個体数が少なくなった。

■特徴：山地の渓谷沿い林縁に生育する1年生のつる植物。両性株と雄株があるという珍しい特徴をもつ。葉は心円形一卵心形の5-7角状で放射状に脈があり、先は尖る。基部は同心形。花期は8-9月。花は黄白色。両性化の花序は下垂し、雄花序は直立する。果実は長柄があって下垂し、卵形で長さ約1cm、表面に突起がある。氷ノ山の渓谷にある自生地では2015年頃には多く見られたが、2020年にはチスマザサが目立つようになり減少した。また2021年の豪雨で渓谷が崩壊したことでも減少に影響している。

■分布 県内：八頭町、若桜町。県外：北海道、本州、九州。

■保護上の留意点：山地渓谷の自然植生の保護と管理。

クロヅル ニシキギ科*Tripterygium regelii* Sprague et Takeda

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



智頭町 2019.7.2 /撮影：前田雄一

■選定理由：県内では、東部の深山、西部の一部にのみ生育し、生育基盤が脆弱である。

■特徴：山地の日当たりのよい立地に生育する落葉性つる植物。つるは赤褐色、若い枝はやや稜があり無毛。葉は互生し、卵形一梢円形、長さ5–15 cmと大型で、両面無毛。花期は6–7月、円錐花序で、径5–6 mmの白色の花を多数つける。花序の小枝や花柄には微細な突起毛がある。果実は翼果。翼は3個で色は淡緑色、紅色を帯びることもある。山地の稜線、林縁、林道や登山道脇等に生育する。智頭町では、一部林道沿いの伐採で姿を消した個体があった。

■分布 県内：若桜町、智頭町、江府町。県外：本州（日本海側、紀伊半島）四国、九州。

■保護上の留意点：山地の林道沿いや林縁の管理における配慮。

執筆者：前田雄一

ヒヨウノセンカタバミ カタバミ科*Oxalis acetosella* L. var. *longicapsula* Terao

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



扇ノ山頂上 2009.5.21 /撮影：坂田成孝

■選定理由：県内では氷ノ山山域の高標高域に分布し、本種の代表的な産地とされている。自生地、個体数とも少なく存続可能性についても検討していく必要がある。

■特徴：県内では氷ノ山、扇ノ山、東山のブナ帶域に群生する小型の夏緑性多年生草本。コニヤマカタバミの変種。根茎は細長く伸び長い葉柄の先に3複葉をつける。小葉は倒心形で角は円形、幅約4 cm。花期は5–6月。花は白色で花弁は長さ10 mm前後。蒴果は長楕円形、長さ15 mmほど。ミヤマカタバミは根茎が太く小葉の角は鈍形。花弁は長さ15 mm前後。近年氷ノ山と扇ノ山ではシカの食害がひどく、花がみつけられない。チシマザサの群落わきに見られるが少ない。東山でもシカの食害で減少が著しい。

■分布 県内：扇ノ山、氷ノ山、東山。県外：北海道（西南部）、本州（日本海側）。

■保護上の留意点：ブナ林の保全。ニホンジカの適正管理、シカの食害防止。

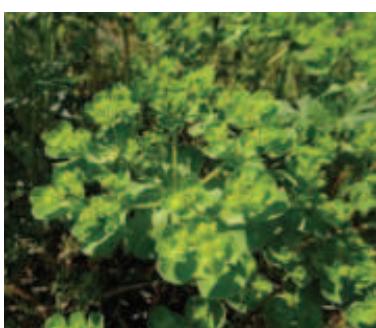
■文献：103.

執筆者：坂田成孝

トウダイグサ トウダイグサ科*Euphorbia helioscopia* L.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



大山町 2021.4.19 /撮影：藤原文子

■選定理由：県内では琴浦町と大山町の海岸に近い田畠、路傍のみで確認されている。生育場所の移動があり、個体群は安定しない。

■特徴：日当たりのよい畑や路傍、堤防などに生育する越年生草本。県内では海岸近くの田畠や路傍に生育する。茎は高さ20–40 cm内外で叢生する。植物体を傷つけると有毒の乳液を分泌。葉は互生し、葉身は長さ1–3 cmのへら型一倒卵形。茎の先にはやや大型の葉を5個輪生し、細鋸歯縁がある。花期は4–5月。各枝先に2–3個の小さな杯状花序がつく。花は黄緑色。腺体は楕円形で子房は平滑。和名は油を入れた皿を置く燈台に模したもの。休耕田や空き地では年ごとに少しづつ生育場所が移動する。ここ10年は個体数の増減を繰り返しながらも、やや安定しているようである。

■分布 県内：琴浦町、大山町。県外：本州、四国、九州、沖縄。

■保護上の留意点：生育地の草地保全管理。維持管理の際の草刈りに留意。

■文献：108.

執筆者：藤原文子

ヒツバハギ ミカンソウ科
Flueggea suffruticosa (Pall.) Baill.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



米子市 2021.6.11 /撮影：藤原文子

■選定理由：県内での生育地は限られており個体数も少ないが、新たに数カ所の生育地が確認されたことから、CR+EN から VU に変更した。

■特徴：低山域に生育する落葉低木。高さは 1-3 m 内外で幹は細かく細分枝する。雌雄異株。葉は互生し長楕円形。花期は 6-7 月。雄花の柄は 3 mm ほどで葉柄から多数束生する。雌花は長さ 10 mm ほどの柄があり、葉腋に 1-5 個つく。花は淡黄緑色。蒴果は扁球形で径 4-5 mm。熟すと 3 裂し種子が散布される。県内の生育地は道端で、道路維持にともなう草刈りのために高さが 1 m 程度に抑えられ、個体群も縮小ぎみのことが多い。

■分布 県内：米子市、米子市淀江町、伯耆町、江府町、日野町。県外：本州（関東・中部以西）、四国、九州。

■保護上の留意点：生育地の環境変化と草刈りに注意が必要。

執筆者：藤原文子

オオバヤナギ ヤナギ科

Salix cardiophylla Trautv. et C.A.Mey. var. *urbaniana* (Seemen) Kudô

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



大山町 2021.5.7 /撮影：矢田貝繁明

■選定理由：全国的な分布は本州中部以北であり、県内生育地は分布南限で隔離分布。個体群も減少している。

■特徴：急流河川などの砂礫の多い河畔に生育する落葉高木。葉は長さ 10-20 cm、幅 2-7 cm の長楕円形。花は淡黄色、穂状で垂れ下がり、花期は 5-6 月。大山の元谷、南光河原、二ノ沢、三ノ沢、川床の渓岸や砂礫の堆積地に生育する。生育地は河原で、個体群維持のためには定期的な自然かく乱が必要。

■分布 県内：大山町。県外：北海道、本州（中部以北）。

■保護上の留意点：河川（砂防）工事による伐開と立地の安定化によって生育環境の消失が懸念される。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

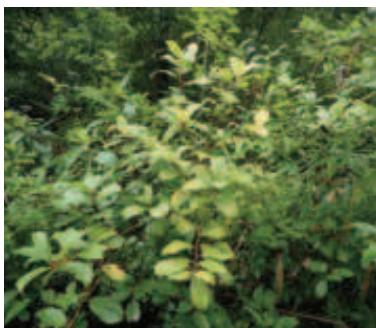
執筆者：矢田貝繁明

サイコクキツネヤナギ ヤナギ科

Salix vulpina Andersson subsp. *alopochroa* (Kimura) H.Ohashi et Yonek.

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



日南町 2021.9.20 /撮影：矢田貝繁明

■選定理由：県内の生育地は西部と東部の数カ所で、生育地、生育個体数ともに少ない。生育環境に人の手が入らなくなり、つる植物の繁茂や樹木の高木化により減少していると考えられる。

■特徴：近畿以西から四国、九州北部の山地に生育する落葉低木。樹高は 2 m くらいになり株立ちする。雌雄異株で、葉が展開する前の 3 月下旬 - 4 月に開花する。葉は互生し、長さ 5-12 cm、幅 2-5.5 cm の倒卵形で表面にシワが目立つ。縁には浅い波状の鋸歯がある。裸材には、顕著な隆起条があるので、樹皮を剥がして確認することができる。

■分布 県内：岩美町、鳥取市、琴浦町、南部町、日南町。県外：本州（近畿以西）、四国、九州北部。

執筆者：矢田貝繁明

ダイセンキスミレ スミレ科

Viola brevistipulata (Franch. et Sav.) W.Becker subsp. *minor* (Nakai) F.Maeck. et T.Hashim.

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



大山弥山 2012.5.31 /撮影：坂田成孝

執筆者：井上喜美子

イソスマリ スミレ科

Viola grayi Franch. et Sav.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



鳥取砂丘 2020.4.27 /撮影：上田康志

執筆者：井上喜美子

ツルタチツボスマリ スミレ科

Viola grypoceras A.Gray var. *rhizomatata* (Nakai) Ohwi

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



智頭町 2016.5.19 /撮影：坂田成孝

執筆者：井上喜美子

■選定理由：大山が代表的産地で、分布上重要である。

■特徴：山地の砂礫地、風衝草原等に生育する多年生草本。茎は赤紫色を帯び、約 5 cm。根生葉は円心形で急鋸歯、基部は心形となり約 2 cm。下面の葉脈や葉柄は赤紫を帯びる。花期 5 月頃に黄色の花を咲かせる。県内では黄色の花のスミレは本種のみである。オオバキスミレの変種で、中国地方では大山、蒜山、道後山などに生育する。

■分布 県内：倉吉市閑金町、琴浦町、大山町、伯耆町、江府町、日南町。
県外：日本海側の山地。

■保護上の留意点：自生地の植生保護。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

■文献：108.

イソスマリ スミレ科

Viola grayi Franch. et Sav.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

■選定理由：鳥取県湯梨浜町原が分布西限。鳥取砂丘では急速に砂が厚く積もり絶滅寸前。湯梨浜では近年個体数が少し増えたが、防風林内の砂地草原化に注意が必要。

■特徴：砂浜に続く砂丘の上にある、海岸性低木や防風林の中に生育する小型の多年草。地下茎は匍匐し、根は深い。葉は肉厚で光沢がある。花期 4 月下旬～5 月。距は白、淡紫。花弁が幅広く、径 2~2.5 cm と大型でふくよか。タチツボスマリの仲間。

■分布 県内：鳥取砂丘、湯梨浜町。県外：北海道～鳥取県中部の日本海側、北海道～青森の太平洋側。

■保護上の留意点：海岸砂丘の保護。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

■文献：108.

鳥取砂丘 2020.4.27 /撮影：上田康志

執筆者：井上喜美子

ツルタチツボスマリ スミレ科

Viola grypoceras A.Gray var. *rhizomatata* (Nakai) Ohwi

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

■選定理由：県内ではブナ帯多雪地の主に尾根筋に生育する。生育場所が限られ点在する程度。山陰が分布の西限。

■特徴：日本海側の標高の高い多雪なブナ帯に生育する多年生草本。日本海要素を構成する種のひとつ。つる状に茎を延ばし、先端に新株をつくるので面的に広がりやすい。この様子から別名クモノスミレとも呼ばれる。花期 5 月中旬～6 月。花は淡紫色～白色に近く、タチツボスマリよりも小形で繊細。距は白色で先が細くなる。葉は腎形～三角形。基部は切形～浅い心形。

■分布 県内：鳥取市、智頭町、若桜町、三朝町、大山町の標高 600～1300 m のブナ林の林床、林道沿い。県外：本州（秋田県～島根県の日本海側）。

■保護上の留意点：ブナ帯の自然林の保護。

■文献：108.

智頭町 2016.5.19 /撮影：坂田成孝

執筆者：井上喜美子

ケイリュウタチツボスミレ スミレ科*Viola grypoceras A.Gray var. ripensis N.Yamada et M.Okamoto*

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



伯耆町 2017.4.16 /撮影：平川 誠

執筆者：平川 誠

サクラスマリ スミレ科*Viola hirtipes S.Moore*

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



水ノ山 2013.5.9 /撮影：坂田成孝

執筆者：井上喜美子

マルバスミレ スミレ科*Viola keiskei Miq.*

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



日南町 2021.4.27 /撮影：藤原文子

執筆者：藤原文子

■選定理由：現在のところ、県内の自生地は西部に限られ個体数も少ない。河川沿いという脆弱な生育環境下で減少や絶滅が危惧される。

■特徴：河川中流域の河岸に生育する小型の多年生草本。増水すると水没するような場所の露岩や転石の隙間に根を下ろし、タチツボスミレの河川環境に適応分化した変種と考えられている。母種に比べて全体的に小型で花は直径1.5 cmほど、花弁は細い。根出葉の葉身基部は切形一やや心形を呈するが、花の後には葉身基部がクサビ形をした茎葉も見られる。また、タチツボスミレと比べて種子の発芽率がよく、発芽までの期間が短いことこのスミレの特徴と言われている。花期は4月中旬。

■分布 県内：伯耆町、日野町。県外：本州、四国。

■保護上の留意点：護岸工事など河川改修事業との調整が必要。

アナマスミレ スミレ科

Viola mandshurica W.Becker f. *crassa* (Tatew.) F.Maek.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



岩美町 2019.4.18 /撮影：上田康恵

■選定理由：北海道から本州の日本海側砂浜にみられ、弓ヶ浜半島が分布西限。県内の分布は少ない。環境の変化に弱く希少化。

■特徴：海岸型の多年生草本。地下茎は砂中に根を下ろし、葉身は長楕円状披針形、光沢があり叢生する。無毛で光沢があり、表側に強く巻き込むのが特徴。花期4-5月。濃紅紫色。飛砂減少やハマゴウ等の繁茂により個体数は減少する。本種は県内各地に見られるスミレの海岸型品種。

■分布 県内：岩美町、湯梨浜町、北栄町、米子市。県外：北海道、本州（鳥取県以北の日本海側）。

■保護上の留意点：海岸砂地の保全と海浜植生の保護。

■文献：108.

V
章

選定種の解説

執筆者：井上喜美子

ホソバシロスマリ スミレ科

Viola patrinii DC. var. *angustifolia* Regel

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



三朝町 2015.5.30 /撮影：平川 誠

■選定理由：県内では中部の山地草原でのみ自生が確認され、個体数はきわめて少ない。山地草原の環境変化により絶滅のおそれが非常に高い。

■特徴：比較的標高の高い山地草原に生育する小型の多年生草本。母種のシロスマリが東日本に分布するのに対し本種は西日本を中心に分布するが、生育地は限られる。花は白色で直径1.5-2 cm、側弁や唇弁の紫条はよく目立ち、花弁基部の喉部は黄緑色となる。側弁基部は有毛で距は短い。葉は名のとおり細い葉身の基部がクサビ形となり、そのまま長い葉柄に続く。花期は5月下旬-6月上旬。

■分布 県内：三朝町。県外：本州（西日本）、四国、九州。

■保護上の留意点：山地草原の保護、保全。

執筆者：平川 誠

アカネスマリ スミレ科

Viola phalacrocarpa Maxim.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



智頭町 2012.5.7 /撮影：坂田成孝

■選定理由：日当たりの良い山地の草原や林縁にややまれに生育する。草刈り管理されてきた山地草原の減少とともに、自生地個体数とも減少している。

■特徴：山地の草原、林縁に生育する多年生草本。地上茎のないスミレ。葉は斜めに開き、ふつう花より低い位置になる。高さ5-10 cm。花期4-5月。径1.5 cm。名前のとおり茜色だが変異が多い。全体に毛が多く、距にも毛がある。花の正面から雄しへはほとんど見えない。側弁の基部以外は無毛のものをオカスマリと呼ぶ。

■分布 県内：点在。県外：北海道、本州、四国、九州。

■保護上の留意点：山地草原植生の保全管理。

■文献：108.

13

維管束植物

執筆者：井上喜美子

アケボノスミレ スミレ科
Viola rossii Hemsl.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



智頭町 2016.4.24 /撮影：坂田成孝

執筆者：井上喜美子

ヒナスミレ スミレ科
Viola tokubuchiana Makino var. *takedana* (Makino) F.Maek.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



江府町 2012.5.2 /撮影：平川 誠

執筆者：平川 誠

ダイセンオトギリ オトギリソウ科
Hypericum asahiniae Makino

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



大山 2011.7.28 /撮影：鷺見寛幸

執筆者：鷺見寛幸

トモエソウ オトギリソウ科

Hypericum ascyron L. subsp. *ascyon* var. *ascyon*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



日南町 2021.7.8 /撮影：藤原文子

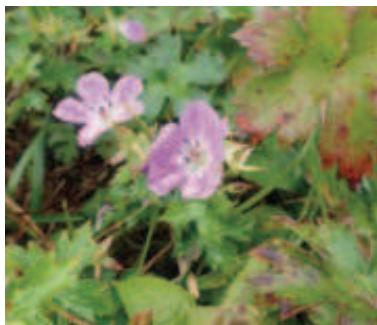
執筆者：藤原文子

イヨフウロ フウロソウ科

Geranium shikokianum Matsum. var. *shikokianum*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



大山 2021.9.14 /撮影：祝原幸治

執筆者：祝原幸治

ビッチュウフウロ フウロソウ科

Geranium yoshinoi Makino ex Nakai

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



日南町 2016.9.15 /撮影：矢田貝繁明

執筆者：矢田貝繁明

エゾミソハギ ミソハギ科
Lythrum salicaria L.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



伯耆町 2021.8.28 /撮影：藤原文子

■選定理由：県内での生育地は極めて限定され、それぞれの生育地が孤立している。耕作放棄地での減少が著しい。

■特徴：低地の用水路や湿地に群生する高茎の多年生草本。根茎は横走し、茎は高さ 50–150 cm 内外になって上部で分枝する。葉は対生–3輪生。葉身は長披針形–広披針形で長さ 3–6 cm、鋭頭。葉と苞葉裏面に毛状突起があり、茎を抱く。花期は 7–9 月。穂状花序をつけ、紅紫色の 6弁花を咲かせる。類似種のミソハギは茎が無毛、葉と苞葉の基部は細まり、茎を抱かない。付属片は横向き。

■分布 県内：三朝町、琴浦町、大山町、伯耆町、米子市。県外：北海道、本州、四国。北半球各地、オーストラリア。

■保護上の留意点：耕作放棄され他の草本に被圧されている生育地がある。ミソハギ同様、盆花として採取されることがある。草刈りに注意。

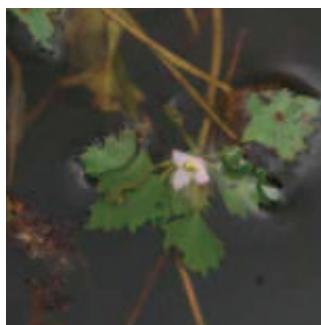
■文献：108.

執筆者：藤原文子

ヒメビシ ミソハギ科
Trapa incisa Siebold et Zucc.

鳥取県：絶滅 (EX)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



兵庫県 2011.9.19 /撮影：松岡成久

執筆者：坂田成孝

エゾミズタマソウ アカバナ科
Circaea canadensis (L.) Hill subsp. *quadrisulcata* (Maxim.) Boufford

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



若桜町 2012.8.27 /撮影：前田雄一

■選定理由：近年は県内での確実な自生記録がなかったが、2012 年以降、東部の若桜町、国府町で自生が確認されている。しかし自生地、個体数とともに少ない。

■特徴：山地の湿潤地に生育する多年草。茎の高さは約 30–70 cm で無毛。葉柄は長く、葉は長卵形、鋸突頭で、縁には浅い鋸歯がある。花期は 7–9 月、花弁は白色–微紅色で、花弁は 2 中裂。花序には短い腺毛を密生する。近縁のミズタマソウは県内でふつうに見られ、茎に下向きの細毛があって花序には毛がないことで区別する。氷ノ山域ではシカによる食害が増加しているが、本種を撮影した時点では健在であった。

■分布 県内：若桜町、鳥取市国府町。県外：北海道、本州（関東北部と氷ノ山域に隔離分布するとされる）

■保護上の留意点：ブナ帯域の森林保護、保全。ニホンジカの適正管理。

執筆者：浜橋和子

イワアカバナ アカバナ科*Epilobium amurense* Hausskn. subsp. *cephalostigma* (Hausskn.) C.J.Chen, Hoch et P.H.Raven

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



大山町 2021.8.3 /撮影：矢田貝繁明

■選定理由：県内の生育地は氷ノ山と大山に限られ、生育個体数も少ない。土砂とともに流出した個体が沢筋や道路側溝内で確認されることもある。

■特徴：山地帯－亜高山帯のやや湿った沢沿いなどに生育する多年生草本。高さ 15–30 cm で、葉は対生し長さ約 4 cm、幅約 1.5 cm の長楕円披針形で、縁には細かい鋸歯がある。花期は 7 月下旬－8 月上旬で、径約 1 cm の白色の花を咲かせる。花弁は 4 枚で、雌しへの先端は丸く、柱頭が球形になっている。

■分布 県内：若桜町、大山町、伯耆町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■保護上の留意点：登山者の踏みつけに注意。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

V
章

選定種の解説

執筆者：矢田貝繁明

ヒメアカバナ アカバナ科*Epilobium fauriei* H.Lév.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



大山 2021.8.21 /撮影：矢田貝繁明

■選定理由：県内の生育地は大山山系に限られ、分布西限である。生育地ではしばしば崩壊・崩落が生じているが、荒廃地に生育する種のため減少は少ない。

■特徴：山地帯－亜高山帯のやや湿った砂礫地や岩場に生育し、高さ 3–15 cm の多年生草本。葉は対生し長さ 1–3 cm、幅 1–4 mm の線形一線状長楕円形。花期は 7–8 月で、茎上部の葉腋から淡紅色の 4 花弁の花を咲かせる。果実は長さ 2–4 cm の細長い蒴果で直立する。種子は 1 mm 程で長い毛が付き風で飛ばされる。

■分布 県内：大山山系（琴浦町、大山町、伯耆町、江府町）。県外：北海道、本州（中部以北）。

■保護上の留意点：登山者の踏みつけに注意。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：矢田貝繁明

アサノハカエデ ムクロジ科*Acer argutum* Maxim.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



智頭町 2016.5.5 /撮影：前田雄一

■選定理由：県内では東部の深山の渓谷沿いと大山の一部にのみ生育する。渓谷自然林が失われ、生育立地が希少化している。

■特徴：山地に生育する落葉小高木。葉は薄く、輪郭は円形。長さ、幅とも 5–10 cm で基部は心形となる。掌状に浅く 5–7 裂し、裂片の先は尾状に尖り、縁には重鋸歯がある。表面の葉脈が深く凹入するため、しわがあるように見えるのが特徴。このしわが麻の葉に似ることからついた種名といわれる。花は 5–6 月、雌雄異株で花は淡黄緑色。雄花序は束生状で 5–15 花をつけ、雌花序は散房状に 7–11 花あり、通常、雌花序の基部にのみ一对の葉をつける。智頭町では、渓谷沿いにあった 1 個体が消失した。原因は不明。

■分布 県内：若桜町、智頭町、大山町。県外：本州（福島県以南）、四国。

■保護上の留意点：渓谷自然林の保護。

執筆者：前田雄一

13

維管束植物

カジカエデ ムクロジ科
Acer diabolicum Blume ex K.Koch

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



若桜町 2016.4.20 ／撮影：前田雄一

■選定理由：太平洋側に多く分布するが、日本海側ではまれ。県内の個体数も少ない。

■特徴：山地の適潤な立地に生育する落葉高木。葉の輪郭は五角形、長さ4-12 cm、幅5-15 cm。基部は心形となり5浅裂。はじめ両面とも有毛であるが、後に上面は無毛。下面には脈上に細毛がある。雌雄異株。智頭町に隣接する岡山県奈義町の県境近くに果実をつけた個体は観察されているが、現段階では県内で果実をつけた個体は未確認である。

■分布 県内：若桜町、八頭町、江府町、日南町。県外：本州（宮城県以南）、四国、九州。

■保護上の留意点：生育地の保全。

執筆者：前田雄一

メグスリノキ ムクロジ科
Acer maximowiczianum Miq.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



八頭町 2016.6.27 ／撮影：前田雄一

■選定理由：太平洋側に多く分布するが、日本海側ではまれ。県内では、標高500 m 前後の山地渓谷で確認されるが個体数は少ない。

■特徴：山地に生育する落葉高木。小枝に白毛を密生する。葉は対生する3出複葉で葉柄に長軟毛を密生する。雌雄異株。花期は5月、果期は8-9月。果実は斜開し、分果の長さは4-5 cm、室部は膨らみ有毛である。新たに八頭町で1本が確認されたが雪害で倒伏した。若桜町の林道沿いにあった1本は伐倒されて消滅した。

■分布 県内：若桜町、八頭町、三朝町、琴浦町、日南町。県外：本州（宮城県、山形県以南）、四国、九州。

■保護上の留意点：山地渓谷の自然植生の保全。伐倒の防止。

執筆者：前田雄一

ヒナウチワカエデ ムクロジ科
Acer tenuifolium (Koidz.) Koidz.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



智頭町 2015.5.6 ／撮影：前田雄一

■選定理由：県内東部の深山、溪流沿いやや湿り気のある立地に生育する。関東地方の太平洋側の山地では普通に見られるが、鳥取県では少ない。

■特徴：山地の適潤な立地に生育する落葉小高木。葉は卵状円形、質はうすく、径4-8 cmで掌状に中一深裂する。基部は心形、裂片は欠刻状重鋸歯をもつ。初め白軟毛を密生するが、下面脈状と脈腋を除きほとんど無毛となる。葉柄は無毛。よく似たコハウチハカエデは一般的にやや乾燥した立地に出現し、葉柄は有毛である。

■分布 県内：若桜町、智頭町。県外：本州（福島県以南）、四国、九州（宮崎以北）。

■保護上の留意点：渓谷の自然林の保全。

執筆者：前田雄一

コクサギ ミカン科
Orixa japonica Thunb.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



鳥取市 2020.4.25 / 撮影：前田雄一

■選定理由：太平洋側での分布は多いが、日本海側ではまれ。県内では東部、西部の低山に生育するが、生育地は減少傾向にある。

■特徴：温潤な林内や沢沿いに生育する落葉小低木。幹は高さ2m程度でよく分枝する。全体に臭気がある。葉は2枚ずつ片側につき、コクサギ型葉序と言われる。葉は、全面にミカン科特有の油点がある。花は4-5月、色は黄緑色。果実は3-4個の分果で7-10月に熟す。以前、鳥取市のケヤキ林下に群生していたが、道路拡張工事により消滅した。人家周辺の生育地は人為が加わることにより消滅するおそれがある。

■分布 県内：岩美町、鳥取市、八頭町、智頭町、伯耆町、日野町。県外：本州、四国、九州。

■保護上の留意点：生物多様性保全の啓蒙。



フュザンショウ ミカン科
Zanthoxylum armatum DC. var. *subtrifoliatum* (Franch.) Kitam.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—

■選定理由：県内では、低山の日当たりの良い崖地、斜面に生育するが、個体数が少なく生育基盤が脆弱である。

■特徴：山野に生える常緑低木で、幹は高さ3-4mほどになる。葉は長さ9-14cmの奇数羽状複葉で、葉柄・葉軸に翼のあることが特徴である。枝や葉の付け根に、基部が著しく広がった扁平な棘を対生する。八頭町船岡のスギ林内に数本生育していたが、林内照度が低下して消滅した。葉に香りが少ないのでふつうは利用されないが、「鳥府志」にフュザンショウらしき記載があり興味深い。なお、常緑低木とされるが、本種にとって鳥取県の冬季は寒いのか、ほとんど落葉する。

■分布 県内：鳥取市、八頭町、三朝町、米子市、伯耆町、南部町、日野町。県外：本州（関東以西）、四国、九州、沖縄。

■文献：105.

執筆者：前田雄一

米子市 2021.6.5 / 撮影：前田雄一

執筆者：前田雄一

カラスノゴマ アオイ科
Corchoropsis crenata Siebold et Zucc.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



日南町 2021.9.2 / 撮影：藤原文子

執筆者：藤原文子

■選定理由：かつては畦畔にふつうに生育していたようだが、明らかに減少した。

■特徴：畑地や路傍に生育する1年生草本。莖は直立し、分枝して高さ30-90cm内外。莖はやや硬く上部には星状毛がある。葉は互生し卵形。6-20mmの長さの柄があり、葉身は長さ2-7cmで両面に星状毛がある。花期は8-9月。花は葉腋に1個ずつつく。花弁は5枚で黄色、径18mmほど。仮雄蕊は5個で10-15個ある雄しべより長く突き出す。萼片は線状披針形で反り返る。果実は線形、長さ25-35mmで3片に裂開する。種子は卵形。

■分布 県内：若桜町、琴浦町、大山町、江府町、日野町、日南町。県外：本州、四国、九州。

■保護上の留意点：草刈りによって草地が維持されている生育地がある一方で、他の植物に被圧されている生育地では草地の維持管理が必要。

■文献：108.

コショウノキ ジンチョウゲ科
Daphne kiusiana Miq.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



南部町 2019.4.6 /撮影：坂田成孝

■選定理由：太平洋側に多い種で県内では少ない。確認されている3カ所の自生地のうち1カ所ではシカの食害で絶滅に瀕している。

■特徴：暖地の林内に生育する常緑小低木。常緑広葉樹林下に生育し、高さ1m以下。雌雄異株。葉は互生し長さ10cmほど、長楕円形一倒披針形で全縁。花期は4月、枝先に集まって長さ10mmほどの筒状花がつく。白色4弁で芳香がある。果実は球形で6月に赤く熟す。果実をかむとじわじわと辛みが増し、最終的にしひれるように辛いという、有毒。県内東部の自生地では倒木とシカの食害で数本が残るのみ。近年花が咲く木が見つけられない。

■分布 県内：鳥取市福部町、倉吉市、米子市淀江町、南部町。県外：本州（関東以西の太平洋側）、四国、九州、沖縄。

■保護上の留意点：低山帯の森林保全。林内多様性の維持。ニホンジカの適正管理、シカ食害防止。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：坂田成孝

カラスシキミ ジンチョウゲ科
Daphne miyabeana Makino

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



大山町 2017.5.9 /撮影：矢田貝繁明

■選定理由：県内ではブナ帯上部に点在するが、群生することはなく個体数が少ない。増加するようすもみられない。

■特徴：ブナ林内に多く自生する常緑小低木。雌雄異株。高さ1m以下。葉は互生し、倒披針形。葉の先は尖り基部はくさび形、全縁で表面に光沢がある。花は6-7月。新枝の先端に白色の花をつけ、筒状で4裂する。果実は球形で7-8月頃に赤熟し目立つ。有毒。シカの食害はないが周りの植生の変化で生育状況がよくない場所も見られる。庭木として使われることがある。

■分布 県内：若桜町、智頭町、大山町、伯耆町、江府町、日南町。県外：北海道、本州（島根県隠岐以東の日本海側）。

■保護上の留意点：自然林の保全。採取防止。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：坂田成孝

ミヤマハタザオ アブラナ科

Arabidopsis kamchatica (DC.) K.Shimizu et Kudoh subsp. *kamchatica*

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



大山 2021.6.20 /撮影：祝原幸治

■選定理由：まれには大山寺の石積みに生えていることがあるが、主に大山山頂部の崩壊地や崩落土砂の堆積している沢や河原に生育しており、生育状態が不安定。

■特徴：日当たりのよい砂礫地や石垣に生育する多年生草本。高さ10-20cm。茎は根元で枝分かれしているものもあるが、やせ地に生えているものは枝分かれしない。根出葉はへら形で羽状に裂けていることが多く、茎葉は互生し、細い倒披針形で鋸歯があるがほとんど目立たない。5-7月に総状花序を出し、アブラナ科特有の十字型で白色の花をつける。長角果は線形で3-4cm。類似のシコクハタザオは葉が茎を抱いており、長楕円形で鋸歯が目立つことから区別できる。

■分布 県内：大山町、伯耆町、江府町。県外：北海道、本州（中部以北）、四国（剣山）。

■保護上の留意点：自生地の継続的な自然保護。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

■文献：106, 108, 117.

執筆者：祝原幸治

スズシロソウ アブラナ科
Arabis flagellosa Miq. var. *flagellosa*

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
 環境省：—



伯耆町 2021.3.14 /撮影：矢田貝繁明

執筆者：矢田貝繁明

ユリワサビ アブラナ科
Eutrema tenue (Miq.) Makino

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
 環境省：—



八頭町 2021.4.3 /撮影：坂田成孝

執筆者：坂田成孝

コイヌガラシ アブラナ科
Rorippa cantoniensis (Lour.) Ohwi

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)
 環境省：準絶滅危惧 (NT)



米子市 2021.11.10 /撮影：矢田貝繁明

執筆者：坂田成孝

■選定理由：県内生育地は1カ所のみで個体数も少ない。生育地が崖地であるため、大規模な崩落や法面対策工事が生じると絶滅する可能性が大きい。

■特徴：山地の林縁や斜面に生育する多年生草本。高さ15–20 cmになり基部から長い匍匐枝を伸ばし広がって群落を形成する。葉茎とともに星状毛がある。花期は3–4月。花弁は白色で長さ12–30 mmの倒卵形。現在、県内で確認されている自生地は、日野川左岸の崖地1カ所のみ。急傾斜地で高茎草本等は定着しにくいが、崩落や工事が懸念材料。

■分布 県内：伯耆町。県外：本州（近畿以西）、四国、九州、沖縄。

■保護上の留意点：法面対策工事の際の配慮。

■選定理由：県内では東部の山地渓流に多いが、シカ食害のために減少した。西部ではもともと多くない。

■特徴：山地の明るい渓流のほとりに生える多年生草本。茎は細く、地をはい斜上する。根生葉は長柄があり、卵円形または腎円形、基部は心形で波状の鋸歯がある。茎葉は小型で互生する。花期は4月。茎頂に総状花序をつけ、白色で4花弁の花をつける。長角果は開出するか下向き、長さ10 mmほど。食用のワサビに比べ小型で根茎は細く花茎は伏す。生育環境は湿った疊地で豪雨にあうと流される。

■分布 県内：岩美町、八頭町、若桜町、鳥取市（用瀬町、青谷町）、三朝町、日南町。県外：本州、四国、九州。

■保護上の留意点：山地渓谷の自然植生保全。ニホンジカの適正管理。

■選定理由：稲作の機械化にともなう乾田化、用水路のコンクリート化で生育に適した低地の水湿地が減少し、自生地・個体数とともに減少している。

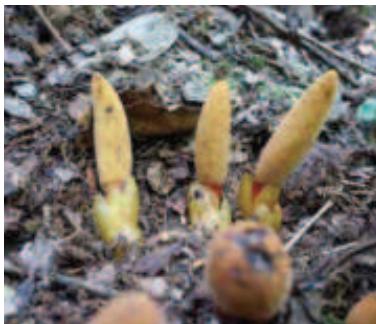
■特徴：低湿地や水田に生育する1年生または越年生草本。茎はよく分枝し高さ40 cmほどになる。分枝せず直立する個体もある。茎の下部の葉は有柄、長楕円形で深裂。上部の葉は無柄で浅一中裂。基部は耳状、茎を抱く。花期は4–5月あるいは9–11月。黄色い花が葉腋につく。果実は円柱形で上向きにつく。過去に確認された大山町、鳥取市の自生地では2010年以降見つかっていない。水田には果実のそっくりなスカシタゴボウが多産するが、果実が下向きにつくことで区別する。2021年には米子市の水田で発見された。継続調査が必要である。

■分布 県内：鳥取市気高町、大山町、米子市。県外：本州、四国、九州。

■保護上の留意点：用水路、水田の環境変更に注意。

ミヤマツチトリモチ ツチトリモチ科
Balanophora nipponica Makino

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)
 環境省：絶滅危惧II類 (VU)



大山 2016.8.4 /撮影：時岡昭人

執筆者：時岡昭人

ツクバネ ピャクダン科
Buckleya lanceolata (Siebold et Zucc.) Miq.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
 環境省：—



智頭町 2014.11.8 /撮影：前田雄一

執筆者：前田雄一

ヒノキバヤドリギ ピャクダン
Korthalsella japonica (Thunb.) Engl.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
 環境省：—



南部町 2020.10.11 /撮影：清末幸久

■選定理由：全国的に稀産。県内では確実な生育の記録がなかったが、2016年に発見された。しかしその個体もその後は見つかなくなり、県内では絶滅した可能性もある。

■特徴：落葉広葉樹林下に生育する寄生性の多年草。地下茎は塊状で地上部は5–15 cm。赤橙色の茎を黄緑色の鱗片葉が覆い、上部に長楕円形で黄褐色–紅褐色の肉穗花序をつける。カエデやシデ類に寄生するとされるが、県内で確認されたものはミズナラの根元に生育していた。寄主の可能性があるミズナラは同年にナラ枯れによって枯死。その枯損木の撤去作業時に付近の地面が荒らされ、それ以降は生育が確認されていない。

■分布 県内：大山。県外：本州、四国、九州。

■保護上の留意点：寄主樹木の生育環境の保全、人為による土地改変防止。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

■選定理由：照葉樹林にやや稀にみられる。県内の自生確認地は現在のところ3カ所のみ。

■特徴：高さ20 cmほどの半寄生の常緑小低木。ツバキ科、モチノキ科、モクセイ科などの常緑樹に寄生しながら自らも光合成を行う。葉は扁平無毛で、古いものは翼状にひろがり節が多くあってヒノキの葉に似る。果実は球形で橙黄色に熟し種子を取り巻く果肉には粘性がある。もともと多産する種ではないとされる（文献）。県内では2014年に鳥取市で発見され、その後南部町でも発見された。

■分布 県内：鳥取市、米子市、南部町。県外：本州（関東以西）、四国、九州、沖縄。

■保護上の留意点：照葉樹林の保全・保護。

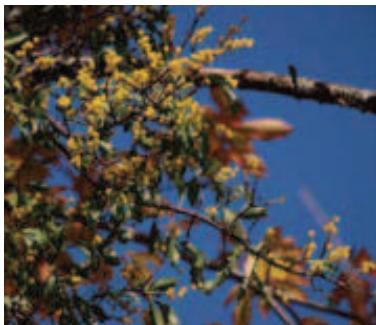
■特記事項：園芸活動に伴って人為的に宿主ごと移植された事例が報告されており、産地の確認においては注意を払う必要がある（文献）。

■文献：7, 38, 86.

執筆者：清末幸久

ホザキヤドリギ オオバヤドリギ科
Loranthus tanakae Franch. et Sav.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：—



若桜町 2019.11.15 /撮影：岡田祐哉

執筆者：岡田祐哉

マツグミ オオバヤドリギ科
Taxillus kaempferi (DC.) Danser var. *kaempferi*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



鳥取市 2018.8.4 /撮影：前田雄一

執筆者：前田雄一

イブキトラノオ タデ科
Bistorta officinalis Delarbre subsp. *japonica* (H.Hara) Yonek.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：—



中蒜山 2013.7.2 /撮影：坂田成孝

■選定理由：県内では 2019 年に生育が確認された。県内東部と西部で見つかっているが、確認地点と個体数は限られている。

■特徴：山間の落葉広葉樹に半寄生する落葉小高木。ヤドリギとは異なり冬に落葉する。葉は全縁でやや肉質。秋に鮮やかな黄色の実を穂状に多数つける。液果は粘液を含み他物に付着する。県内ではヤドリギ、アカミヤドリギと同じ樹木に寄生している。花期は 6~7 月。花は小さく黄緑色でみつけにくい。

■分布 県内：若桜町、大山町、日南町。県外：北海道、本州。以前は中部以北とされていたが、広島県、島根県でも見つかっている。

■保護上の留意点：ナラ枯れの防除。樹木伐採時の配慮。

■選定理由：主要な寄主であるマツ類が松材線虫病により枯損。個体数が激減した。

■特徴：県内では主にマツ、モミなどに寄生する常緑樹。枝はよく分枝する。葉は倒披針形で全縁、革質で厚く無毛、長さ 1.5~3 cm、鈍頭で基部はやや細くなり、1 mm 程度の柄がある。花は 7~8 月頃。葉腋に 1~4 個ずつ深赤色の花をつける。花被は筒状で長さ 15 cm 程度、先は 4 裂し、裂片は片側に反り返る。果実は球形で径は約 5 mm、赤く熟す。鳥取市河原町のアカマツに寄生していたマツグミは松材線虫病被害により消失した。県西部ではモミに寄生している。

■分布 県内：鳥取市、伯耆町、南部町。県外：本州。

■保護上の留意点：寄主であるマツ科樹木の保全管理。

執筆者：前田雄一

■選定理由：県内の生育地はごく限られている。利用放棄により山地草原が失われつつあり、個体数が減少している。

■特徴：山地や高原の日当たりがよい草原に生育する多年生草本。茎は直立して高さ 1 m に達するが、風の強い尾根では低くなる。根生葉は長柄があり、葉身は披針形、長さ 20 cm に達し、基部は翼状になる。莖葉は細長く数も少ない。光合成には根生葉の寄与が大きく、生育には背の低い草原が適していると思われる。花期は 7~8 月、長さ 10 cm ほどの花穂を先端に付ける。中蒜山一下蒜山の尾根沿いで確認されているが、草地の面積が減少し、個体数は減少傾向である。

■分布 県内：倉吉市閔金町（中蒜山）。県外：北海道、本州、九州、北米。

■保護上の留意点：草刈りなど山地草原の維持。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：坂田成孝

オオハルトラノオ タデ科*Bistorta tenuicaulis* (Bisset et S.Moore) Nakai var. *chionophila* Yonek. et H.Ohashi

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取市用瀬町 2018.4.4 /撮影：坂田成孝

■選定理由：県内山地のやや明るい谷間や林縁に生えるが、樹木や大型の草などの増加で減少傾向である。またシカの食害がひどく絶滅した地點もある。

■特徴：山地の落葉樹林の沢沿いや礫地、草地に生育する多年生草本。根茎は太く匍匐し、ふくれた節がある。葉は根出し卵形または三角状卵形、基部は切形または浅い心形。花期は4月。穂状花序をつくり花は白色。和名は穂状花序を虎の尾に見立てたもの。オオハルトラノオは1990年代に新変種と記載されたもの。県内のハルトラノオは花後に葉が大きくなり長さ10 cm以上、幅も5 cmにもなる。県内東部の山地ではシカの食害がひどく、個体数が激減している。

■分布 県内：鳥取市（用瀬町、佐治町）、若桜町、智頭町、日南町。県外：北陸（富山県）－中国地方（広島県）の日本海側。

■保護上の留意点：

山地谷沿いの植生保護と草地維持。ニホンジカの適正管理。

■特記事項：2012年版RDBのハルトラノオを再同定しオオハルトラノオとして記載。

■文献：24, 118.

執筆者：坂田成孝

アオヒメタデ タデ科*Persicaria erectominor* (Makino) Nakai var. *erectominor* f. *viridiflora* (Nakai) I.Ito

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



米子市 2018.6.6 /撮影：矢田貝繁明

■選定理由：県内では中海周辺の休耕田や水湿地でのみ生育が確認されている。生育地にヨシが繁茂してきており、生育環境の悪化が急激に進んでいる。

■特徴：水湿地に生育する多年生草本で、茎の上部は枝を出し直立する。花期は5月下旬～6月上旬。白色の花を密につける。生育地は休耕地が多く、その後放棄されるため、高茎草本の繁茂により消滅することが多い。基本種のヒメタデでは花は淡紅色、県内では確認されていない。

■分布 県内：米子市。県外：北海道、本州、四国、九州。

■保護上の留意点：生育地の草地化防止。

執筆者：矢田貝繁明

サイコクヌカボ タデ科*Persicaria foliosa* (H.Lindb.) Kitag. var. *nikawai* (Makino) H.Hara

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



標本 岩美町 2001.11.2 /撮影：坂田成孝

■選定理由：県内東部のため池で確認されていたが、ため池管理方法の変更により絶滅した。他の場所ではみつかっていない。

■特徴：ため池や湿地に生える1年生草本。茎は地表をはって枝を多数分け、高さ50 cmほどになる。葉は披針形で長さ5 cm前後、鋸歯、葉柄は短く伏毛がある。托葉鞘は筒状で縁毛は筒部と同長が短い。花期は10月。総状花序は花をまばらにつけ、長さ2 mm前後、花被片の基部近くは淡緑色、上部は紅色。蒴果はレンズ形、茶褐色。秋に水を抜いていた岩美町のため池で水路に沿って見られたが、ため池改修後は水を抜くことがなくなり、これにともなってこの場所では絶滅した。

■分布 県内：岩美町（現在は生育が見られない）。県外：本州（愛知県以西）、四国、九州。

■保護上の留意点：ため池管理者の理解と協力。

執筆者：坂田成孝

ヤナギヌカボ タデ科*Persicaria foliosa* (H.Lindb.) Kitag. var. *paludicola* (Makino) H.Hara

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取市気高町 2001.11.8 /撮影：坂田成孝

■選定理由：県内ではため池にわずかに自生してきた。山間の水田の耕作放棄にともないため池管理がされなくなっている。

■特徴：湿地や水辺に生育する1年生草本。県内ではため池の水の流入する水湿地に生育する。茎は地をはい、上部で斜上、分枝し、高さ30cm内外。葉は狭被針形で長さ7cm前後、鋭突頭、短柄。葉鞘は筒形、縁毛は等長。花期は9-11月。まばらな穗状につき花は紅色。平地の水田、道ばたに見られるイヌタデは葉が広披針形、鏡頭で花は密につく。山地の湿った場所に生えるハナタデは葉が卵形、先が尾状にび鈍頭。花は淡紅色でまばらにつくことで区別できる。気高町のため池は秋の水抜きをやめたため2007年に消失。岩美町のため池は土手の改修後、生育に適した水辺がなくなり消失。2ヵ所とも2010年以後は生育が確認できない。

■分布 県内：岩美町、鳥取市（いずれも現在は生育が見られない）。県外：北海道、本州、四国、九州。

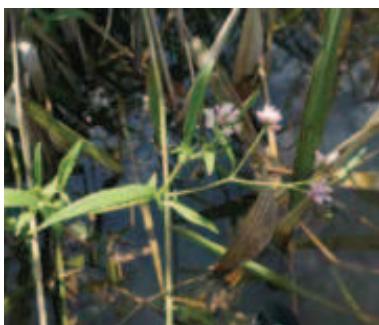
■保護上の留意点：ため池管理者の理解と協力。

執筆者：坂田成孝

サデクサ タデ科*Persicaria maackiana* (Regel) Nakai

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



鳥取市 2021.9.27 /撮影：永松 大

■選定理由：県内では湖山池周辺の水辺にみられるが、2012年の湖山池汽水化により湖岸からは消失した。水辺環境の縮小にともない希少化し、絶滅のおそれがある。

■特徴：河川敷や低地の水辺等に生育する1年生草本。茎には下向きのトゲがある。葉は互生し、葉身は矛形あるいは披針形、葉柄がある。花期は7-10月。花弁ではなく5深裂する白色の萼からなる。結実時は濃い紅色になる。県内では現在は休耕されている水田の湿地状の部分に群生する。湖山池の汽水化で湖岸からは消滅、周囲の用水路にも塩分が入り消滅した。

■分布 県内：鳥取市。県外：北海道、本州、四国、九州。

■保護上の留意点：水辺や河川敷の原野的な環境の維持。

執筆者：永松 大

ノダイオウ タデ科*Rumex longifolius* DC.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取市 2021.6.25 /撮影：坂田成孝

■選定理由：県内では山地渓流の土壤堆積地や水田土手に見られたが、刈り払いがなくなり高茎草本群落に変わった場所が増え、本種は減少が著しい。

■特徴：山地渓流沿いの日当たりのよい草地や崖地に生育する大型の多年生草本。茎は直立して高さ1mを超える。根出葉や下部の茎葉は有柄、長楕円形で基部は心形、両面とも無毛で波状縁、鈍頭で大きい。上部の茎葉は小さく長楕円形。花期は6-7月、円錐状輪散花序。果実の翼は円心形で全縁。帰化植物のギシギシ類が多いので同定に注意を要する。県内でも以前は本種はふつうに見られたと思われるが、山地渓流や水田環境の変化で稀種になった。

■分布 県内：鳥取市、日南町。県外：北海道、本州。

■保護上の留意点：川沿いの草地の維持管理。

執筆者：坂田成孝

タチハコベ ナデシコ科
Arenaria trinervia L.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：絶滅危惧 II類 (VU)



日南町 2021.5.12 /撮影：藤原文子

■選定理由：県内の生育地はきわめて限定されており、個体数も少ない。林道沿いで草刈りされてしまう。

■特徴：山地に生える1年生または越年生の草本。茎は下部から分枝して広がり、高さ7-20cm内外になる。茎に下向きの毛を密生する。葉身は卵形-広卵形で先は鋭形、基部は楔形-円形。茎の基部につく葉には柄があり、長さ7-25mm、両面に短毛ある。花期は4-6月。花はまばらで小花柄は長さ1-4cm。萼片は広披針形、1脈があり先は鋭尖形で縁部は白色、長さ3.5-5mm。花弁は白色、長倒卵形で萼片より短い。蒴果は長さ2-3mmで6裂する。種子は腎卵形黒色で光沢があり、径約0.8mm。

■分布 県内：日南町。県外：北海道、本州北部、四国、九州。

■保護上の留意点：山地林道の維持管理にともなう草刈りや除草剤散布に注意。

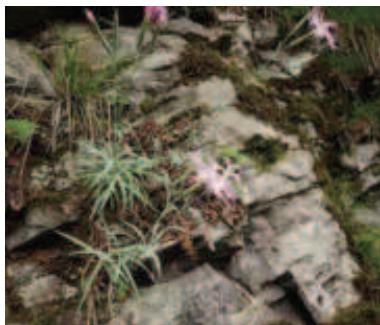
■文献：84.

執筆者：藤原文子

エゾカワラナデシコ ナデシコ科
Dianthus superbus L. var. *superbus*

鳥取県：絶滅危惧 II類 (VU)

環境省：—



若桜町 2019.7.5 /撮影：矢田貝繁明

■選定理由：県内での自生地は少なく個体数も多くないが、近年の生育状況は比較的安定している。

■特徴：日当たりのよい山地の岩場などに生育する高さ40cmほどの多年生草本。茎は直立して上部で枝を分ける。葉は広い線形で茎とともに鮮やかな粉白色を帯びる。カワラナデシコの苞葉が3-4対あるのに対して本種は2対であることで区別される。三徳山では昔からその存在がよく知られミトケナデシコと呼ばれて親しまれてきた。園芸用に人気があるため、地域住民への保護意識啓発が必要。

■分布 県内：若桜町、三朝町。県外：北海道、本州（中部以北）。

■保護上の留意点：採取防止、地域住民への保護意識啓発。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

■文献：106, 108, 109.

執筆者：磯江茂秋

オオヤマフスマ ナデシコ科
Moehringia lateriflora L.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



日野町 2017.5.16 /撮影：藤原文子

■選定理由：大山の山地草原や県内西部の道端、草地に数々所生育が確認されているが、分布は飛散的である。道路工事や維持管理で刈り払いされることもある。県内東部での生育は確認できていない。

■特徴：山地の草原や道端に生育する纖細な多年生草本。茎は有毛で細く、上部で分枝して高さ10-20cm。葉は対生し、長さ1-2cmの長椭円形。3脈が目立ち有毛。花期は長く、6-8月にかけて径約1cmの白い5弁花を咲かせる。雄しべは10本。

■分布 県内：大山町、日野町、日南町。県外：北海道、本州、四国、九州。

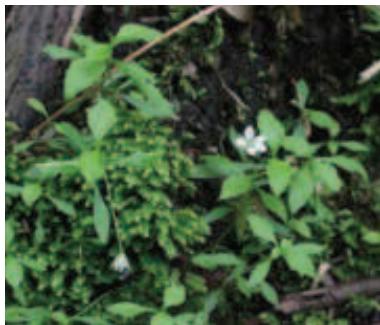
■保護上の留意点：草丈が低いため、他の植物に被圧されると生育できなくなる可能性がある。草刈りなど人為的な植生管理の継続が必要。

執筆者：藤原文子

ワチガイソウ ナデシコ科*Pseudostellaria heterantha* (Maxim.) Pax var. *heterantha*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



智頭町 2012.5.17 /撮影：坂田成孝

■選定理由：県内の自生地はブナ帯の渓流沿い岩壁や岩上で適地は少なく生育環境も不安定。小型のため環境変化に弱い。

■特徴：ブナ帯の渓流沿いの岩壁、岩上や岩礫堆積地に生育する小型の多年生草本。塊根があり紡錘形。茎は細く1-2列の毛がある。枝分かれせず高さ8-18cm。葉は対生、基部はくさび形となる。花期4-6月。上部の葉腋から長柄を出し、先端に白色の花を1つづける。花弁は5枚で、約は紫紅色で目立つ。和名は江戸時代、名前がわからないこの草に「輪ちがい印」を付け目印としたことに由来。

■分布 県内：若桜町、智頭町。県外：本州（福島県以南）、四国、九州。中国。

■保護上の留意点：ブナ帯域の渓谷沿い周辺自然林の保護。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

■文献：108.

執筆者：井上喜美子

マルミノヤマゴボウ ヤマゴボウ科*Phytolacca japonica* Makino

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



智頭町 2021.8.21 /撮影：前田雄一

■選定理由：県内東部の限られた地域で確認情報はあるが、生育実態が不明である。

■特徴：低山の林縁や林内に生える大型の多年生草本。茎は太く高さ1m以上になる。葉は互生し、無毛で全縁。長楕円形で先はやや尾状に尖る。花は6-8月頃直立した総状花序をつくり、花弁はない。果実は球状で黒紫色に熟し、種子は腎円形。表面には同心円状の条がある。帰化種のヨウシュヤマゴボウの果序は下垂する。ヤマゴボウ種子は表面が平滑で、葉は楕円形-広楕円形で先はあまり尖らない。

■分布 県内：智頭町。県外：本州（関東地方以西）、四国、九州。

■保護上の留意点：調査努力の継続、山地林の保護。

執筆者：前田雄一

ゴゼンタチバナ ミズキ科*Cornus canadensis* L.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：—



三朝町 2021.6.21 /撮影：時岡昭人

■選定理由：県内での生育は1カ所のみ。近年、開花株数にやや改善傾向がみられるが、着果株数はきわめて少ない。

■特徴：亜高山帯の樹林下に生育する小型の多年草。根茎が地中を這い、地上に5-15cmの茎を直立する。葉は4枚あるいは6枚で、花の咲く茎には茎頂に1対と葉腋に2対の計6枚がつき輪生状に見える。花期は6月。白色の総苞片4枚に10-20個の頭状花序をつける。果実は球形で秋に赤熟する。県内唯一の生育地はブナ帯上部の平坦地でチシマザサの繁茂が著しい。その圧迫を受けるとともに近年はシカの痕跡も目立つ。

■分布 県内：三朝町。県外：北海道、本州（中部以北）、愛媛県。

■保護上の留意点：採取防止、チシマザサの管理、ブナ自然林の保全。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆者：時岡昭人

ウラジロウツギ アジサイ科
Deutzia maximowicziana Makino

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



智頭町 2012.6.5 /撮影：坂田成孝

■選定理由：県内東部にまれに分布し、自生地、個体数とも少ない。近年シカ食害がひどいため、絶滅のおそれが出てきている。

■特徴：内陸の常緑広葉樹林帯の崖地に生える落葉低木。分枝して高さ2mほどになる。当年枝は紫褐色を帯びる。葉は対生、長卵形披針形一狭卵形で不ぞろいな細鋸歯がある。表面に星状毛があり下面に細かい星状毛が密生して灰白色となる。花期は5月。枝先に円錐花序を出し白色の花をやや下向きに多数つける。谷間に多産するウツギは裏面が灰白色を帯びない。岩場で見られるヒメウツギは裏面脈上にのみ星状毛がある。2021年時点では個体は維持されているが、シカ食害がひどく全体衰退、開花はみられなかった。調査による自生地の増加もない。

■分布 県内：智頭町。県外：本州（中部以西）、四国。

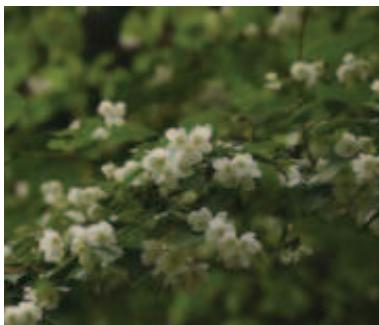
■保護上の留意点：山地崖地の自然植生の保護。ニホンジカの適正管理、食害防止。

執筆者：坂田成孝

バイカウツギ アジサイ科
Philadelphus satsumi Siebold ex Lindl. et Paxton

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



智頭町 2021.5.23 /撮影：岡田祐哉

■選定理由：県内各地に点在するが、渓谷の岩場が中心で、自生地と個体数が限られている。

■特徴：太平洋側の山地に多い落葉低木。茎は多数枝分かれして株状になる。葉は対生、5–10 mm の柄がある。広卵形一長楕円形、先は鋭尖形。縁に低い鋸歯があり5主脈が目立つ。花期は5–6月、枝先に数個の花をつける。花弁4枚、径3 cm で白色のウメの花を思わせる花をつける。花には芳香があり庭木に使われることもある。生育地は山地渓谷周辺の岩場や崖状地でコクサギなどと混生する。ウツギとも混生するが、今年枝や葉に星状毛が無く葉は洋紙質で微毛を散生し縁の鋸歯がウツギよりはっきりする。葉の基部から5脈が出て目立ち、蒴果に4つの萼片と花柱が宿存することも本種の特徴。

■分布 県内：鳥取市（河原町、佐治町）、若桜町、智頭町、三朝町、大山町、日南町。県外：本州（岩手県以南）、四国、九州。

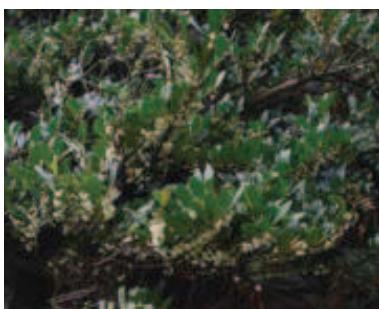
■保護上の留意点：山地渓谷の自然植生保護。採取防止。

執筆者：松本 経

ハマヒサカキ ペンタフィラクス科
Eurya emarginata (Thunb.) Makino var. *emarginata*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



大山町 2021.11.10 /撮影：浜田幸夫

■選定理由：県内が分布北限にあたり生育環境が不安定。公園や街路への植栽が多く自生個体との交雑の心配もある。

■特徴：海岸に生育する暖帶性の常緑低木一小高木。雌雄異株。根元近くで多数分岐する。葉は互生し水平状2列に密生する。長さ2–4 cm、倒卵形で先端は円形か凹型。基部はくさび型。縁に鈍い鋸歯があり裏側に巻き込む。上面に光沢があり下面は灰緑色。花期は10–11月、白色で葉腋に1–4個が束生。萼片、花弁とも5枚。雄花は径約5 mmで釣鐘状。雌花はやや小さく花柱3裂。果実は球形で黒く熟す。

■分布 県内：鳥取市、琴浦町、大山町。県外：本州（中部以南の太平洋側）、四国、九州、沖縄。

■保護上の留意点：道路・公園の植栽木としてなじみ深いが、自生種としての重要性を地域住民に周知し、除草、道路整備時に配慮が必要である。

■文献：18

執筆者：浜田幸夫

リュウキュウマメガキ カキノキ科
Diospyros japonica Siebold et Zucc.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



八頭町 2017.6.27 /撮影：前田雄一

ギンレイカ サクラソウ科
Lysimachia acroadenia Maxim.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



江府町 2021.6.15 /撮影：藤原文子

サクラソウ サクラソウ科
Primula sieboldii E.Morren

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



日南町 2020.5.9 /撮影：浜田幸夫

■選定理由：県内東部の限られた地域に生育するのみで個体数が少なく個体群の存続に懸念がある。

■特徴：やや湿気があって陽光のある傾斜地や谷間に生育する落葉高木。樹皮は若木では暗灰褐色で平滑だが、樹齢が高くなると細かく割れて黒みを増す。若い枝は、すぐに無毛となる。葉は広卵形一狭卵形、時には長楕円形、長さ 7-19 cm。全縁で下面はマメガキよりも粉白色で無毛。葉柄もマメガキよりも、ずっと長く 1-3.5 cm ある。雌雄異株。花部の構成はカキノキと同様。果実は玉形で径 1.5-2 cm、秋に熟す。

■分布 県内：岩美町、鳥取市、八頭町。県外：関東以西の本州、四国、九州、沖縄。

■保護上の留意点：谷沿いの自然植生の保護。

執筆者：前田雄一

執筆者：藤原文子

■選定理由：山地の湿った場所に生育するが、生育確認は多くない。林道工事等による生育地の多くがみられる。

■特徴：山地の湿り気の多い場所に生育する多年生草本。茎には稜があり直立して上部で分枝し高さ 30-70 cm 内外。茎の上部や花序には粒状の腺毛が散生する。葉は互生し広披針形一狭卵形で先は鋭くとがる。基部は次第に狭まり翼のある柄となる。裏面には赤褐色の細点を散生する。花期は 6-7 月、枝先に小さな花をまばらに 10-30 個つけ総状花序となる。苞は糸状。花柄はまばらに腺毛があり広く開出する。花柄は花期には長さ 3-6 mm でやや下向、果期に 1-1.5 cm になり斜上する。萼は深く 5 裂し、裂片の先是鋭くとがり、花冠よりすこし短い。花冠は赤みを帯びた白色で 5 裂し、あまり開かず長さ 5-6 mm。裂片は狭長楕円形で先は円い。雄しべは花冠と同長かわずかに長い。蒴果は球形で径 5 mm、熟すと先が 5 裂する。

■分布 県内：八頭町、江府町、日野町、日南町。県外：本州一九州。濟州島。

■保護上の留意点：山地の道路改修工事等。

■文献：85.

執筆者：藤原文子

■選定理由：日南町の 1 自生地が県の天然記念物に指定され保護体制は充実したが、他の自生地は個体数が減少傾向にあり状況は好転していない。

■特徴：落葉樹林の畦畔沿いや湿潤な草原に生育する多年生草本。他の植物に先駆けて早春に成長する春植物。結実後に地上部は枯れるが、地下茎は活動を続け夏から秋にかけて花芽分化する。葉は根生し 4-10 cm の葉柄がある。葉身には鈍鋸歯があり縮れた微毛が密生、葉脈に沿って皺がある。花茎は長さ 15-35 cm、散形花序で先端に 5-15 個の高環型の花をつける。花期は 4-5 月、花冠は淡紅色、稀に白で 5 深裂し先端に浅い切れ込みがある。花粉媒介にはトラマルハナバチが関与。雌しべが長く雄しべが短い長花柱花とその逆の短花柱花のタイプがあり結実には異型花の受粉が必要。

■分布 県内：江府町、日野町、日南町。県外：北海道、本州、九州。

■保護上の留意点：採取防止、保全活動の継続、里山の維持管理。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

■文献：112.

執筆者：浜田幸夫

クロバイ ハイノキ科*Symplocos prunifolia Siebold et Zucc. var. prunifolia*

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



南部町 2015.5.6 /撮影：矢田貝繁明

■選定理由：県内では南部町金華山（金花山）のみに自生が知られている。現在のところ絶滅に至る可能性は低いが、局所的で希少性が高い。

■特徴：山地に生育する常緑高木。高さ 10 m、幹直径は 30 cm を超える。樹皮は黒褐色。葉は互生し、橢円形か長橢円形で葉身は長さ 5–8 cm、幅 2–3 cm、先端が突き出す。革質で厚く表面は濃緑色で光沢がある。裏は白緑色、両面とも無毛。葉縁に鋸歯があり裏側に反り返る。葉脈は表面は凹み裏面は盛り上がる。前年枝の葉腋から 3–7 cm の総状花序を伸ばし多数の白色の花を付ける。花柄があり花冠は 5 深裂する。果実は核果。長さ 6–8 mm の狭卵形で、秋から冬にかけて黒紫色に熟す。

■分布 県内：南部町。県外：本州（関東以西）、四国、九州、沖縄。朝鮮半島南部。

■保護上の留意点：自生地の自然林保護。保全意識の向上。

■特記事項：県指定天然記念物「金華山熊野神社社叢」。

■文献：18, 74.

執筆者：浜田幸夫

トクワカソウ（イワウチワ狭義） イワウメ科*Shortia uniflora (Maxim.) Maxim. var. orbicularis Honda*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取市佐治町 2021.4.25 /撮影：坂田成孝

■選定理由：県内が分布西限。愛好家に人気があり遊歩道沿いなど身近な自生地を中心開花個体が採取され、株数は明らかに減少している。

■特徴：山地のやや暗い林床や尾根沿いのやや乾いた岩混じりの急斜面に生育する常緑の多年生草本。岩場だけではなく土に生育することが多い。根茎は横走し葉は根出し叢生する。葉は円心形で円切頭一凹頭、やや厚硬で光沢がある。波状歯縁で長柄がある。花期は 4–5 月。径 2 cm ほどの淡紅色の花を 1 個つける。広鐘形で 5 裂し各片はさらに細かく裂ける。葉が小さく、広円形で長さより幅が広く基部が心形なのが狭義のイワウチワ、葉が広橢円形で基部は円形またはくさび形になり北陸から近畿にかけて分布するのをトクワカソウとする。これらは地域ごとの傾向であり区別できない個体も多い。

■分布 県内：若桜町、智頭町、鳥取市（用瀬町、佐治町）、三朝町。県外：本州（東北－中国地方）

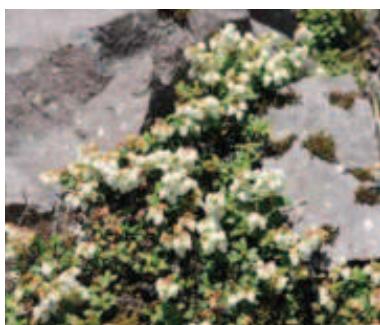
■保護上の留意点：採取防止。山地の自然林保護。ニホンジカの適正管理

■特記事項：分布西限。イワウチワとして、国立・国定公園採取禁止指定種。
執筆者：松本 綾

コメバツガザクラ ツツジ科*Arcterica nana (Maxim.) Makino*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



大山 2014.5.16 /撮影：矢田貝繁明

■選定理由：県内では、大山と鳥ヶ山の山頂部の風衝草原や岩礫地に生育し国内分布の西限にあたる。環境の変化が少ない場所であるが、生育状態には注意を要する。

■特徴：高山の砂礫地、岩礫地に生育する常緑小低木。茎は地上をはい、上部が直立して高さ 5–10 cm になる。葉は 3 枚輪生し、革質で長さ 5–10 mm の橢円形。花期は 5 月中一下旬で枝の先端に花序を出し、下向きに白色のつぼ形の花をつける。大山では山頂部の南向きの砂礫地に多く生育している。

■分布 県内：大山町、江府町。県外：北海道、本州（中部以北）、奈良県、兵庫県。

■保護上の留意点：登山者による踏みつけ防止。

■特記事項：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：矢田貝繁明